



紀伊國名所圖會

二之卷
海部郡

ル 4
1833
3



門 1833
3

紀伊國久所圖會卷之二目錄

高松茶屋

弥勒山

雜沓浦

雜沓浦

五箇羅漢寺

鶴立嶋

甲寄

芦辺浦

毛吹谷

今海樓

妹背山

根上り松

雜沓合戦

梅溪翁宅趾

秋葉大獲

芦辺古田趾

弁天五社

斤茶の芦

養床ち

今海樓

妹背山

崖の洞

名珠院

観口石

日釣岩

矢宮

小町峯

宗低松

芦辺園池

三断橋

三断橋

奥洗岩

雜沓野

小江浦

龜徳巖

蜆の宮

宗低瀬

雜沓城趾

妙見寺

郭公池

観海樓

獨蟹



中村

中村



高松茶屋

糸織浦の
 の住茶
 巾着府の
 深さへ
 糸織の
 糸織の
 魚賣れ
 若山
 螢雪春

四條大納言遊覧
 岩根彦
 天候宮
 浦の初嶋

玉津浦神祇
 石條
 東照宮
 拜殿
 護国堂
 神寶
 箱
 唐門
 神樂所
 開山堂

玉出島
 大相院
 東照宮神祇所

根上り松

根上り松の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
根上り松の地名あつてあつた所をいふがまきり根上り松の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり根上り松の地名あつてあつた所をいふがまきり

源安足

源安足

源安足

愛宕山名珠院瑞雲寺

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

瑞雲寺の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり瑞雲寺の地名あつてあつた所をいふがまきり

近郷の力者集會

近郷の力者集會

近郷の力者集會

近郷の力者集會

弥勒寺山

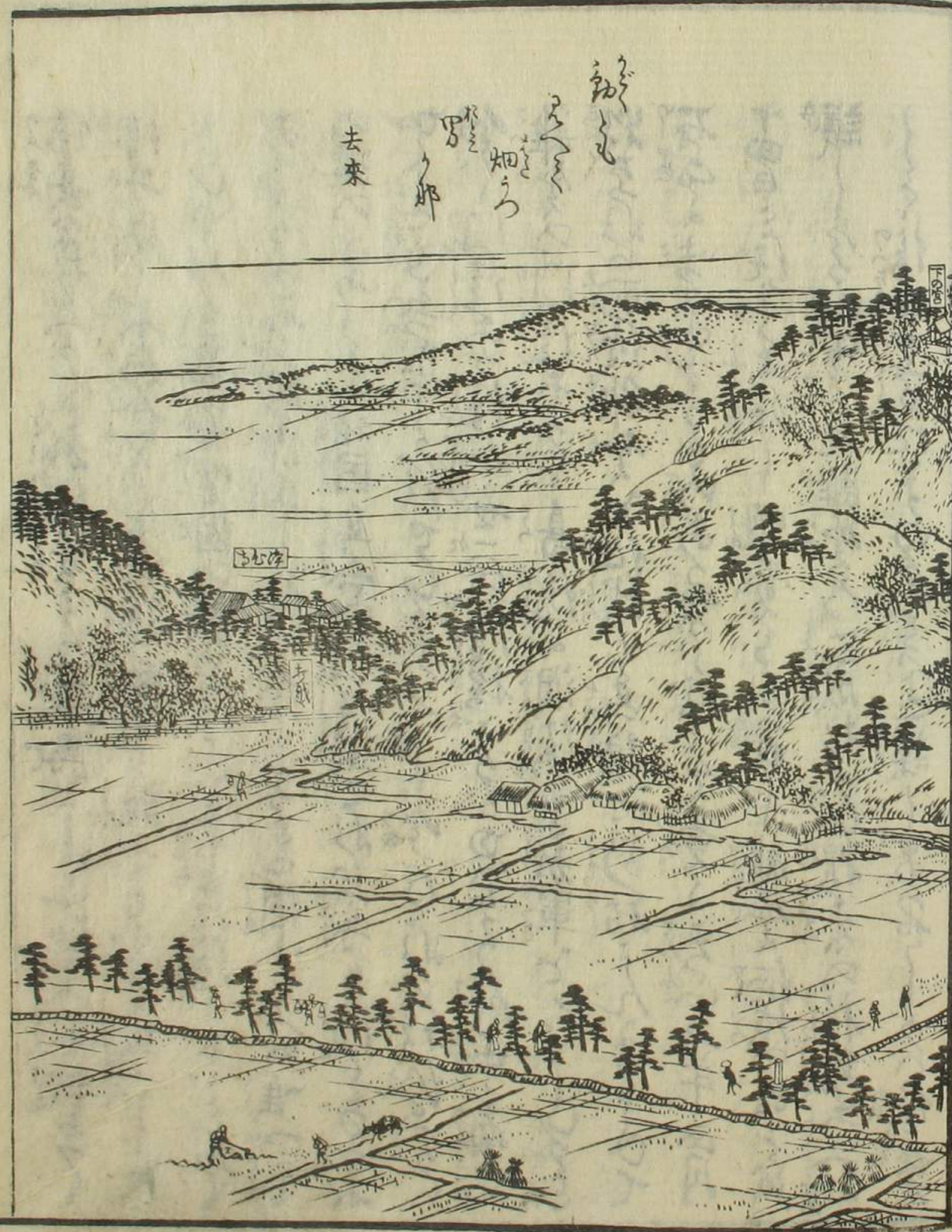
弥勒寺山の南郡七十八年と此地の昔まこと其根もつてあつた所をいふがまきり
弥勒寺山の地名あつてあつた所をいふがまきり弥勒寺山の地名あつてあつた所をいふがまきり
の世よりの名もあつた所をいふがまきり弥勒寺山の地名あつてあつた所をいふがまきり

雑記

雑記

雑記

雑記



去來
野
畑
山



圓珠院
愛宕権現

観石

信長公おとしくお結策より軍馬とくしむるに敵なく
 浅井依り本館倉ちんどの強敵す既しつて攻七一た
 としつめる要害の城よりしむるに敵なくしむるに
 あらふあはれの津生しせつとくしむるに敵なくしむるに
 の堀のあはれ諸国鳥合の門はあはれ守りしむるに敵なくしむるに
 おしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 今一門はあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 雑沓の門はあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 石らあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 十四日ばつと上落し明覺らふ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 議しつてあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 信長公おとしくお結策より軍馬とくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに

おなきふよろこびすより謀成決し二月十日とくしむるに
 お洲差江に出張し大将は秋田城之助信忠北畠中将信雄
 織田上佐助様へ三七等すむと十ヶ國の精兵とくしむるに
 ともひつてしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 りとて軍陣のあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 とくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 小雑賀の上下名州はあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 つつとくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 りとて軍陣のあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 筑前守と吉荒本松津守別所小三島はあはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 久右衛門と一騎あはれ守りしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 とくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 ともひつてしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに
 ともひつてしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに敵なくしむるに

旅勤寺山
新合乳
東澤山
此
甲崎
玉付
名州



松田源三を支配奉右衛門を支配宮平を支配藤兵衛石島を支配
勢五音人雜谷川に紀の川のちやとよの川柵逆本まきぐく柵
あうはを設け桶壺よりの足をたぬまきんとん中の手は原
見たり半宿の東後山に岩あり本孫市谷をたむじ乾源
内を支配外は安治土名身三那の旁名の湯土を支配とあり
これより赤尾を甲崎の岩に同掃部を支配四島八島合丹
松七渡に友た衛門との尾寄に大舟とよるべ其勢五百人
中手のまはらちうを合せ南の山津原を支配の湯の
あう上り刑務種を五島右衛門を支配ま意三井地堂利その
手勢五島のまきぐく八百人弥勒寺山の寺陣に的場源四島を
とまゆり南のまきぐくあいのまきぐく一鳥流とほまきぐく
をいん先まきぐく推すを身一むまきぐく敷き一すまきぐく馬を
派んとすまきぐくや年毎う大退潮をまきぐくまきぐく

は堪へしとらち中はまきぐく一穿ん溜つらとらちま
後まきぐくまきぐくあまきぐくむ縁まきぐくあまきぐく
はあつたえんぐふおまきぐくおまきぐく半の下に百五十騎
いりまきぐく討倒しあまきぐくまきぐくまきぐくとまきぐくと生元
はまきぐくとまきぐくと雜谷あまきぐくとまきぐくと勝凱堂や
はまきぐくとまきぐくとあまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
もらまきぐくと大軍とまきぐくと大備一四路路にまきぐくとまきぐくと
新く織田方のまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
一島の断滅をまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
勝利をまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
あまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
差をまきぐくとまきぐくと鳥流とまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと
同戸村をまきぐくと大宮の廣前をまきぐくとまきぐくとまきぐくとまきぐくと

雜沓山

名集巖

儀的岩

教如大巖

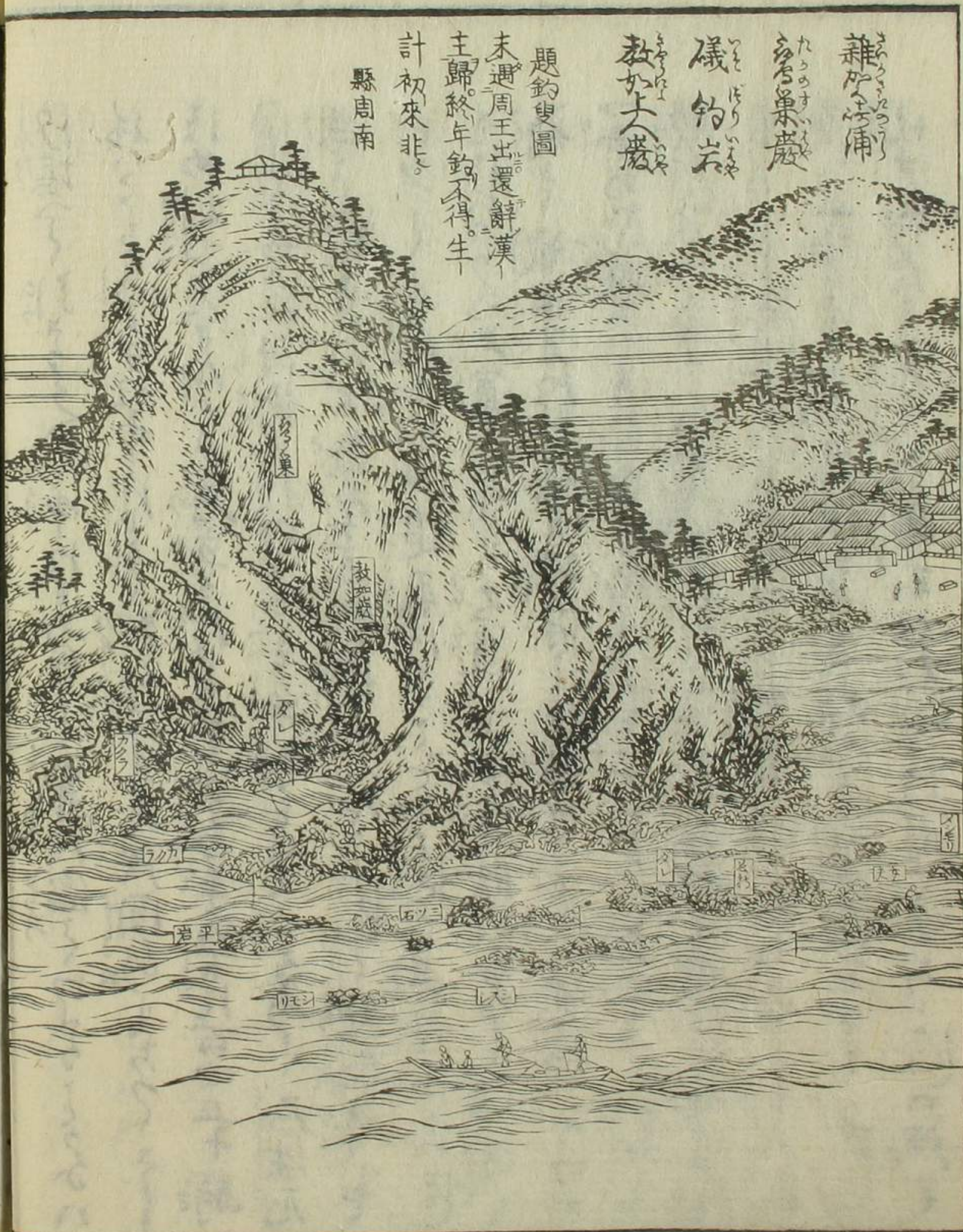
題釣叟圖

未週周王出還辭漢

主歸終年釣不得牛

計初來非

縣周南



香玉

川中

よる魚の

れ方

實隆

おつけり

岩山

魚十

波の日

勢勿津

徐來

勢勿津



拍子河波よはてんて雑質踊る多づけ毎年四月十七日

東照神君の浦に終ふ侍も だまるといふなりとせ

親石 舟の浦にありて石を砕きし事あり其侍親の乳にさす

雑質 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

雑質 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

鹿野由背上本所見奥嶋清波 飯風吹者 山邊宿稱赤人

浦 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

梅溪翁舊宅跡 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

日向岩 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

小浦 舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

名草濱通入此所 中古壅関為陸云

雑質崎浦

舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

賦漁父

中例

鷹巢巖

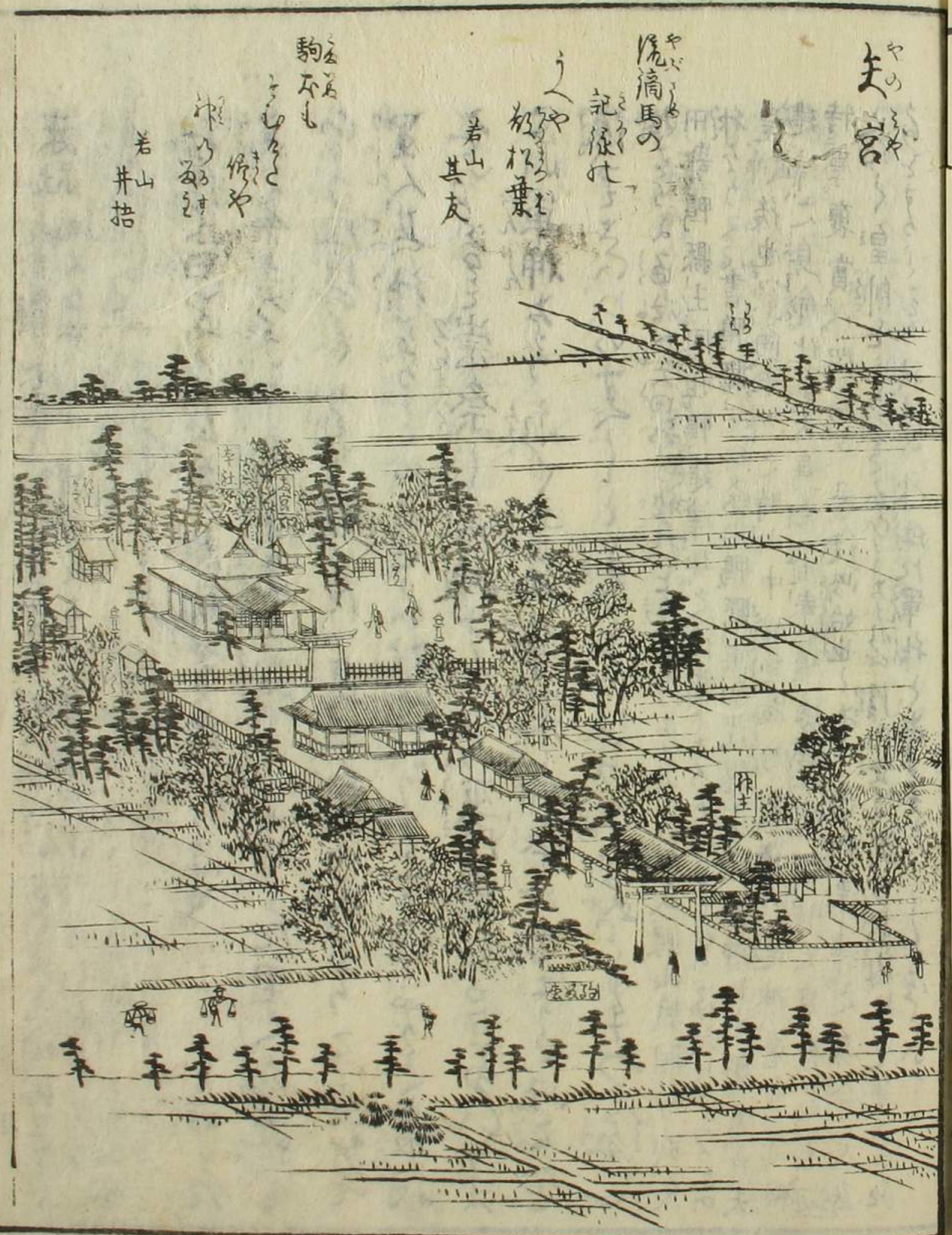
舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋

舟の浦にありて十月幸記伊国時作秋



夫の宮

流瀆馬の

記依れ

松葉

若山 其友

駒石も

津乃 石

若山 井指

天宮

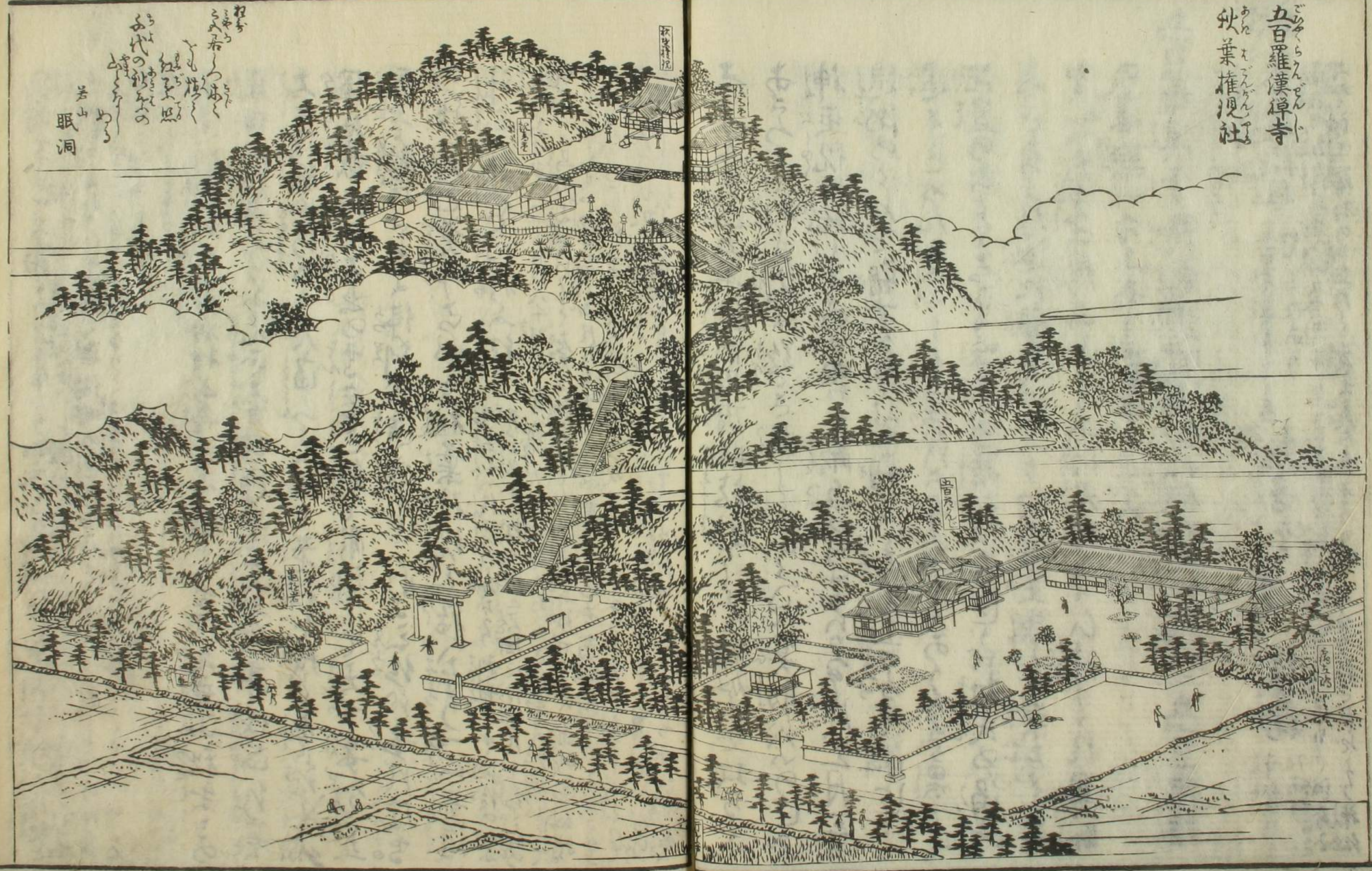
伊勢村のあり難かき庄三ヶ村の生主神代
伊勢九日十二日流瀆馬村十時あり

紀神(座武用身命)

中門主に大なる思合神合神を遊むる
 つらて教め上人と申あまの神ははる果も織田から
 大坂へ討人とて向ふ新市門をば大坂も歩けぬ
 中門流瀆をたぬいたる八年八月三日泉及佐せ川の
 孫帝あるもの伝はせしめ申あまもたぬいへるも
 織田方よりいそぎとなく兵士とてかちてはるま
 小中を流瀆もたぬいへると思はるひまおれも難か
 の内より流瀆もたぬいへる思はるひまおれも難か
 中門流瀆をたぬいへる思はるひまおれも難か
 流瀆のあり難かき庄三ヶ村の生主神代
 伊勢九日十二日流瀆馬村十時あり

姜濃 怒風

五百羅漢禪寺
秋葉権現社



眠洞
山



中ノ浦
天浦ノ松濱ノシラノ松
あくととて内陸の
ふかきとら海をちまより
海へゆへに深きもあは
おろし四時もさるる
やどめさあつらう
行路は
とせしつらう
とせしつらう

芦辺寺四跡

府城の南界のやうなりてあり

法師谷

徳光寺のうしろの

小町ヶ峯

山崎の南界のやうなりてあり

規の宮

五首の源のやうなりてあり

甲崎

規の宮のやうなりてあり

辨賊天兵

日北のやうなりてあり

宗祇の寺

甲斐のやうなりてあり

宗祇の頼

甲斐のやうなりてあり

遊弱浦

野田好古尚甫

二儀二儀高

弱浦標

勝境壯觀天下奇

靈嶽孕寶符神功

下擊遠眸

南香二峯接十洲

激浪噴雪動地軸

船舟指頭

淡島青一象天柱

想望幾千秋玉島

崑戸松徑

彩雲浮春樹長凝

仙仗色翠萃消息

神祖宮殿

摩蒼天賀雲石登

排星躔昇平久沐

百世日月

懸管公祠廟欽威

靈蒼翠深籠古松

遼野樹津

亭遠基布存鹵渺

接望望海樓環列

石路轉開

琳宮松江鶴吹沙

觜雨葦岸人倚酒

板相向背

恍望飛閣登雲中

奇觀無端倪臨泛

椽王周遊

風四蹄若便海槎

得相通神眩空嗟

可賦趣可

樂胸中山水元領

畧山水爭衡來奏

漫磊落壯

觀難極奇中

奇幾回欲賦筆相

芦辺浦

おのれ村まゝの入りてはてしなく

新勅

おのれのやうなりてあり

玉葉

おのれのやうなりてあり

續後

おのれのやうなりてあり

日

おのれのやうなりてあり

日

おのれのやうなりてあり

新十

おのれのやうなりてあり

日

おのれのやうなりてあり

新拾

おのれのやうなりてあり

新後

おのれのやうなりてあり

新續

おのれのやうなりてあり

日

おのれのやうなりてあり

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき 無品親王

家集あし 芦岡鶴のわが浦と ことなきまきと ことさうら 今とら 清輔朝臣

杵玉 わが子の浦の芦ふるふたりのまきと ことさうら 今とら 今とら 彦法和尚

月清 若れらのあし ことさうら 今とら 今とら 今とら 大政大臣

五押 わらわのあし ことさうら 今とら 今とら 今とら 定家

士二 口の浦をまきと ことさうら 今とら 今とら 今とら 家隆

家集 わがあし ことさうら 今とら 今とら 今とら 為家

瓊玉 芦岡鶴のわが浦と ことさうら 今とら 今とら 今とら 宗尊親王

雪玉 わがのうら ことさうら 今とら 今とら 今とら 實隆

美のうら ことさうら 今とら 今とら 今とら 守武

標 ことさうら 今とら 今とら 今とら 槐亭

行葉の声 口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

生るるもあらん ことさうら 今とら 今とら 今とら 行葉の聲

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

口の浦やまらなるふ 護まきく 芦ふるく 川の国 鶴もさき

養珠寺
妙見堂

養珠寺賞
垂絲櫻花

夜來新雨足。枝放十分妍。雪分比梨暖。條々借柳懸。寺林地勝。深容醉花。豈年但恐。暴風夜正。逢寒食前。

祇南海

垂絲宜春花

宜春花。裏鏡妖燒移。種。送隨南海潮。織女機絲天外。落仙姬鍼線日邊飄。樹風白髮三千丈。帶雪垂楊十萬條。曾作東方春色主。年年獨立衆芳朝。

松岳



百々
春の道あり

大坂
野坂

雨の日を
糸橋

五筑

五筑

書院 養珠院 延慶元年 住持 中興 住持 中興 住持 中興

林泉 前亞相頼宣邸令 住持 中興 住持 中興 住持 中興

思齋弁泉 南龍院殿 本惠院殿 香林院殿 住持 中興 住持 中興 住持 中興

妙見堂 住持 中興 住持 中興 住持 中興

中央妙見菩薩 右東照神君 五番善神

牛角石 圓形 住持 中興 住持 中興 住持 中興

諸事 養珠院殿 住持 中興 住持 中興 住持 中興

乃に弘利所造立所心願あるをなすよりして所遠近のめら

ゆ地より移したまふ佛殿古代より修めしを在りて止る

至海樓遺跡 住持 中興 住持 中興 住持 中興

望海辰樓何處求 玉津島北石巖頭翠華不返煙

波側沙鳥雲帆神護秋 秋德帝神護元年幸明光浦

今按妙見山乃 是望海樓遺址 戸辺屋朝日屋

戸辺茶店の二亭あり

登妙見山 祇南海

望海辰樓何處求 玉津島北石巖頭翠華不返煙

波側沙鳥雲帆神護秋 秋德帝神護元年幸明光浦

今按妙見山乃 是望海樓遺址 戸辺屋朝日屋

戸辺茶店の二亭あり

登妙見山 祇南海

望海辰樓何處求 玉津島北石巖頭翠華不返煙

波側沙鳥雲帆神護秋 秋德帝神護元年幸明光浦

今按妙見山乃 是望海樓遺址 戸辺屋朝日屋

戸辺茶店の二亭あり

登妙見山 祇南海

望海辰樓何處求 玉津島北石巖頭翠華不返煙

波側沙鳥雲帆神護秋 秋德帝神護元年幸明光浦

今按妙見山乃 是望海樓遺址 戸辺屋朝日屋

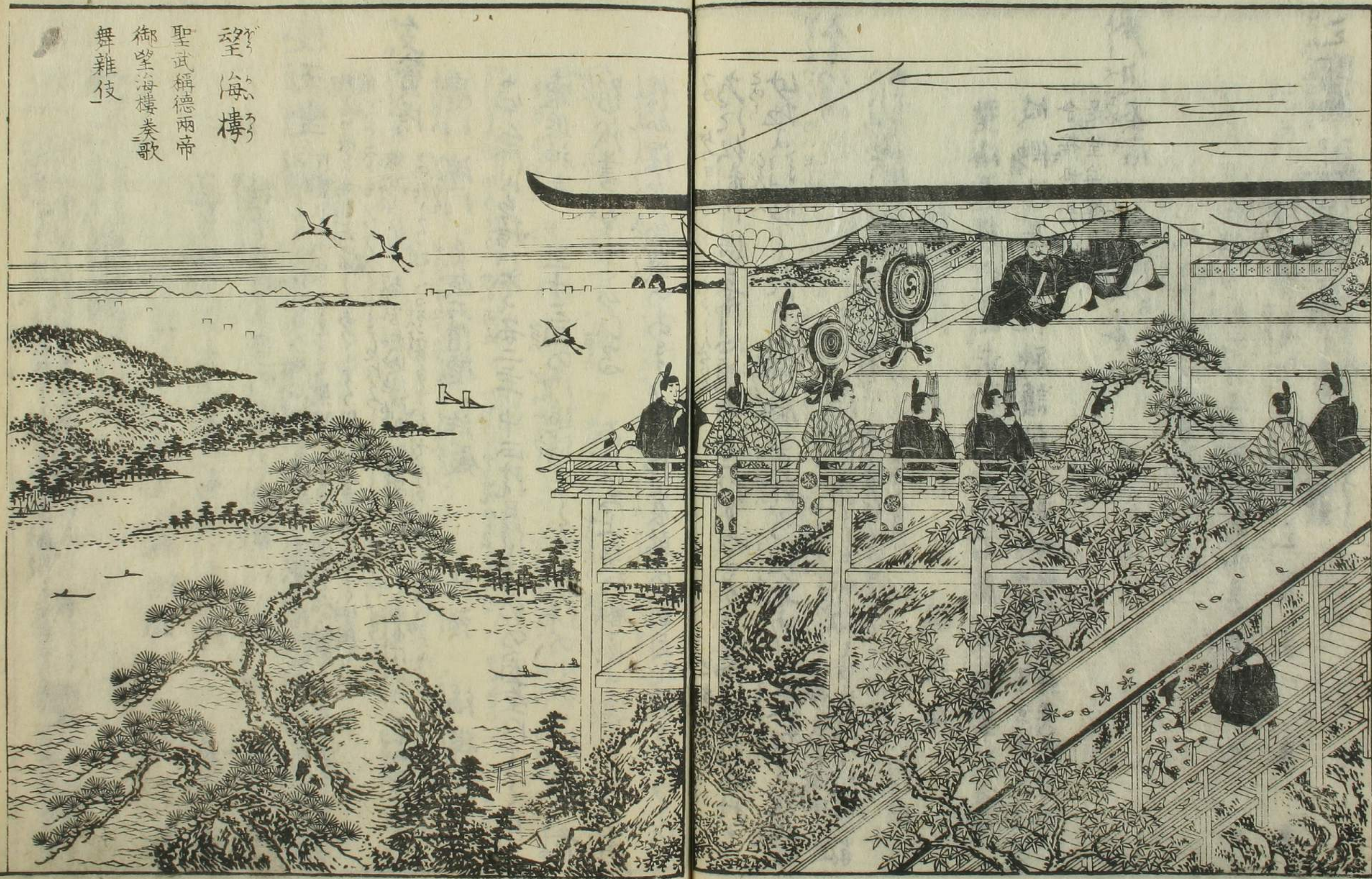
三斷橋

杭州西湖の三橋のわがやうな風景

これからちりちりの花をまき

淡々 鬼貫

望海樓
聖武稱德兩帝
御望海樓奏歌
舞雜伎



郭公山

今妹背山と云ふ一の名山なり。今もその地を尋ねしむる者少し。其の地は、
今月のまゝにひかる所ありて、其の地は、
わろくともなほ山と云ふも、
わろくともなほ山と云ふも、

五月の五日の御油を山

無名氏

月を知らしむる者少し

宗 極

柱をわく所のありしれ傘の角

淡 々

経王堂

三つありて、左にありて、右にありて、
三つありて、左にありて、右にありて、
三つありて、左にありて、右にありて、

多寶塔

唐門 瑞門 自然石階 洋殿 塔頭 海禅院

中云院日後修むの用盡す

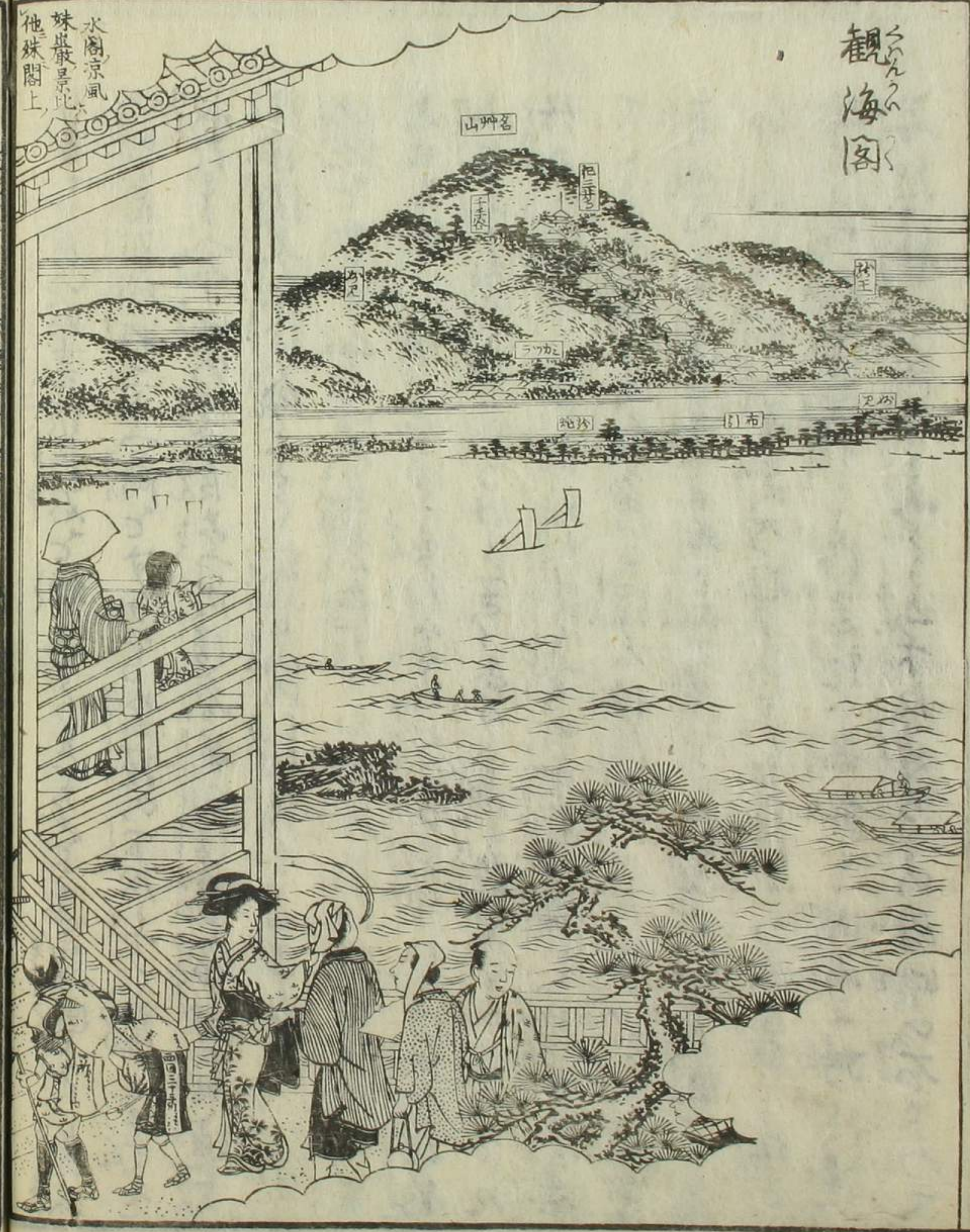
東照神君 二十二面の市追福

野矢書

信公深草敷感のあり

公前百座の石書、
の歌目石、
収たし、
院日、
地と、
ま、
山、
竹、
て、
ま、
ら、
雄、
果、

觀海圖



水閣涼風
殊最景此
他殊閣上

遊人無日無
尤是清涼不
知夏天風吹
月過平湖
祇南海



朝屋
貞柳

狂飲
和方
波
紀三井寺

山田
松島

埃岸上人言李郭傳啣杯向天仰大笑明月落杯河影浮使
君特贈些錦鱗兼之玉醪紅新筍高僧亦頌香積厨石花雲
芳秋菽柔佳期如此人不醉嫦娥笑人空白頭不惜十千盡
一復賒為君掃盡萬古愁君不見治兼丞相氣如虎遷都自
謂閑天府南渡衣冠脚夢冷掉月淡島及明浦借問人與月
孰有無唯聽蘆荻風今古人生歡樂奈老何帳望斜月沉江
波嗟我安得虹蜺長萬丈躡作天提挽曰玉璽於金樞之何
此夕夕野君馳使賜鯉魚及美酒養
珠寺隆上人聞予船過門前贈行厨

妹背海苔

又海苔の妹の故にあり山修の歌にありわをいりまの
波に後を流し目も涙もあはれに流るるをいりまの

嵐乃祠

玉律及津社南土のまぬにあり
なぐ薬の嵐乃牛の嵐乃

この上右玉津岩の神祭れし神幸ありし沖流所の跡あり
永祿年中まきくい祭日此山嵐乃神輿渡幸ありたりたり

波急に流るる神輿とりのやち区漂没し其のち神幸
と止めあるまふまふとく高野明神の神輿此も後世
とありたるも其由も高野明神の神輿と慕られた
まし沖馬にまきくい通いしと丹生明神ありと
に思食をいれ玉津岩(神)にまきくいと丹生明神
の神輿に唐の言をまきくいとまきくいと高野明神の
神記にのたまはり

高野明神の神輿に唐の言をまきくいとまきくいと高野明神の
神記にのたまはり



四條
大納言
公任卿
和歌浦
樹徳

海士人のけら後らんきりりやわりやふとるをさるん 公任
あなごころのけらあなごころのけら花をむけてよらん 少将

彼きりりきりりきりりきりりきりりきりりきりりきりり 公任

よふへりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり 少将

獨螯蟹

はちのりあり
その蟹はあり小蟹にて色白く斤几等々なく其の姿は
蟹入るたり草綱目曰獨螯蟹有毒不可食之云々

船遊和歌浦奉次が大人顔 南嶋樵者

檜嶺蒼古佛檀入風梵貝度雲端雨晴海嶽珠明媚天接
烟波獨側漫離戸花開春晝靜漁村松瘦夕陽寒欲尋當日
行宮處鼓石驕傳響玉車金

玉津島神社 日西の 花神明老浦之靈に長通雄を配くまらる

犯神の手記區々（抄）倭國の御代に於ては

神樂舎（神樂）關白殿下の御寄附（正徳四年）寶庫（禁裏御所御代）御法樂

石築双卷（正徳四年）靈元上皇御奉納（神前常夜燈御領御成書）御奉納（御奉納）敦直の御

日 双卷（於戲靈瑞于今干昔）眞堅影堂永世同跡（神龜元年甲子冬十月五日）幸紀伊國時山部赤人作歌一首

万葉 安見知之和朝大王之常宮等仕奉流左日鹿野由背上尔

所見奥嶋清波激尔風吹者白浪左和伎潮干者玉藻前管

神代從然尊吉玉津島夜麻

返哥

日 奥嶋荒儀之玉藻潮于滿伊隱去者所念武香聞

日 玉津島見見而伊座青丹吉平城有人之侍問者如何

日 玉津島雖見不飽何為而與持將去不與人之为

日 玉津島見之善聖吾無京往而戀思者日

古今 玉津島儀之裏末之真名仁文爾保比去名妹觸險 人麻呂

後撰 和國原也る浪のきりくもみまのやと玉津島も よみかへ

全葉 玉津島岸の波の立ちてさよそきりぬ名妹さひも 修短たま歌集

續後 今らもともむん玉津島守む入江の春のあけかの 多儀乃成

續古 いららぬ浦風吹りてそよそきりぬ玉津島娘 撰政新大政大臣

同 ひてよりわがの浦のあけきりぬ君とや侍玉津島娘 石原隆信

續古 ひ度はよもほはる玉津島あけきりぬ名妹さひも 前内大臣卷

玉葉 三代まよひり今の名もさうりぬをさうり玉津島娘 後醍醐院御製

日 こそはねもあは玉津島あけきりぬ神のこころあはれ 崇徳院御製

玉津島見まうてよみけりたる

日 くらげの浦のまよひり玉津島あけきりぬ玉津島娘の歌ありすか 惟宗忠景

日 くらげの浦のまよひり玉津島あけきりぬ玉津島娘の歌ありすか 前大納言為家

凡雅 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 よみ人し

新千 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 源親長朝臣

新拾 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 津守小道

新後 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 信実知臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 大信云光麻

新續 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 大信云光麻

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 鹿園院入道

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 大政大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 後之明院

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 白前大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 季 姓

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 後九条内大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 右大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 右大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 法印高家

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 持大徳言忠良

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 後倉右大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 俊 頼

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 永 縁

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 後京極攝政大臣

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 家 隆

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 家 長

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 行 家

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 忠 定

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 俊 成 卿

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 在野長親

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 頭阿法師

日 玉律のしらべもあすつらやしくつとてんみわ人の為 南都 州庵

西槐 任事多しぬらむ極くほふもあつて宿れらさしん 榮 雅

千首 若のうらあふらん玉津のあふんとささるあやら 宗 雅

丘露 浪まともあふらん玉津のあふんとささるあやら 前右大臣

柏玉 あつてあふらん玉津のあふんとささるあやら 源朝臣

雪玉 あつてあふらん玉津のあふんとささるあやら 後柏原院御製

千首 たるるあふらん玉津のあふんとささるあやら 實 隆

日 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 牡丹花

日 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 耕 雲

哥合 世のあふらん玉津のあふんとささるあやら 春宮大夫師兼

良玉 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 天台座主

永久 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 相 模

家集 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

千首 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

六帖 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら 玉津のあふらん玉津のあふんとささるあやら

律守國を
玉出燭靈
夢の所



上皇古今集沖傳受のくあもあつたより沖法樂のくあ
 沖製のお奇の首廿二公卿の詠奇四十七首初合五十首の
 初奇沖奉納あもたまふくまゆ絶く久くた神がた乃
 宮居あもた莊嚴のまをまけ神威赫くくく空かたり
 ちくくあも玉出考のくま自る神の奇無ふよりく雖悔ふ
 國祖若沖中真の力をくく多と神人合舞くく其附とねま入
 ともくく

○玉津島とる神乎古今愛華ある事
 世俗玉津島の神と衣通姫とらとくくわ奇の神とする
 其謂もたのあもた其の袖中抄題昭くた在京亮被申
 信吉神主國を住吉の本にたたり弟四柱の玉津島明神
 衣通姫とら後つらたのい後くあもたもくく又法備体州た

年為小老と云ふてわが所の浦より母なるり玉津の娘 津守國卷
是は信吉神宮寺の女は淨土あり國卷此堂と建玉のた壇
の石より紀伊國に渡るよ美浦の玉津真木神社あり此きけの
衣通娘のけりとも面白がるたのしく神に渡り跡を
ちりともいつらぬ人ゆじならるる讀くちりあり其夜のゆ
に唐髪より裳唐衣より女十人なりちりあむくさきし
慶りよちりともくべれたるし教るるの昔のく石あり
こいぬおききり度れ十二顆に破れ壇の飾へり
尅と又山畠准后親房附古今集序に成抄と引く
云五十八代の神門克者天皇沖腦あり一侍帝乃沖養小
赤たをるる女房はれにちり
立りよむゆ世よゆん其をりれわがの浦に
と此方公誦くはれ帝御養の中れ誰人にくまきりぬんぞと

ただのこもあいたはれ衣通娘ありと云ふくありこいぬ
よりてにわ二年九月十二日右大辨源隆行を勅使し
紀伊國の浦につるし衣通娘と云ひ女の林よりひま
以上三流も衣通娘をとりあつていこいぬ一國史より
いもちりえよりけ地衣通娘の跡と云ふん由縁あり
ざるをよむく世の人語りはるるを上件の人々の書
いもあかり信りるるはるる全ていりていもなり世
下りてわより考ふる人あり准治りをけりしり
ちりちりり
今御海記 准治り親 十月 衣通娘は紀
伊勢守 明神と云ふるすべし
あやまひりちりり ちりりちりり ちりりちりり
奉りちりりちりり先地と玉津女と云ふるは女の
とんちりり上り玉津女と云ふるは律女と云ふるは
まひちりりちりり

勢古水門より當国日さふもいふくもた彼靈珠とて
まら地たるにむめはは備へ神をよるとたまひけんを
崩神の後孫奉まるとりらんかよ由縁あまむあなり
千俵二俵のくろ平をいふも毎法に取らるるもつて人あはれ皇后
の神考と接けらるる海水結願天運とて國馬海子とて言めるに神は
傍二俵にまらるる名はさかや一匹してまらるるに下りては
牌のまらるるまらるるまらるるまらるるのまらるる又は
干満の二俵とてまらるる撰律國にまらるる神も玉生る玉と
まらるるまらるる

新拾

津守國平

此中事書ふに古の甲ろ兼合社頭從とり其社のうし合
たるむとの地の名所とては頭とまらるるまらるる作者との人
あまらるるまらるるまらるるまらるるの二俵と泉則飯七
の池に納らるるまらるるまらるる明神とてまらるる
一直まらるるまらるるまらるるまらるるの神とまらるる

一社 底筒 二社 中筒

二社 表筒 四社 神

又二説一社 五座

二社 宇佐

二社 底筒 中筒

四社 神

又二説一社 五座

二社 田霧

三社 表筒 中筒

四社 神

又二説一社 五座

二社 海

四社 玉俵

日本紀

私記云神名帳曰撰律國に吉郡に吉座神四座

並名神 大月 先師

説曰神四座者神の皇后坐別殿候 撰律國中 何社にも 是の記とて

難考するに吉田社の内社にば神の皇后のまらるるまらるる

一説はまらるるまらるる神の皇后のまらるるまらるる

玉俵の明神とてまらるるまらるる

皇后のまらるる玉俵のまらるる神のまらるる

皇后神在世人のたまはしる由緒あるをのまらるる皇后崩神の後

玉俵の神神とてはまらるるまらるる

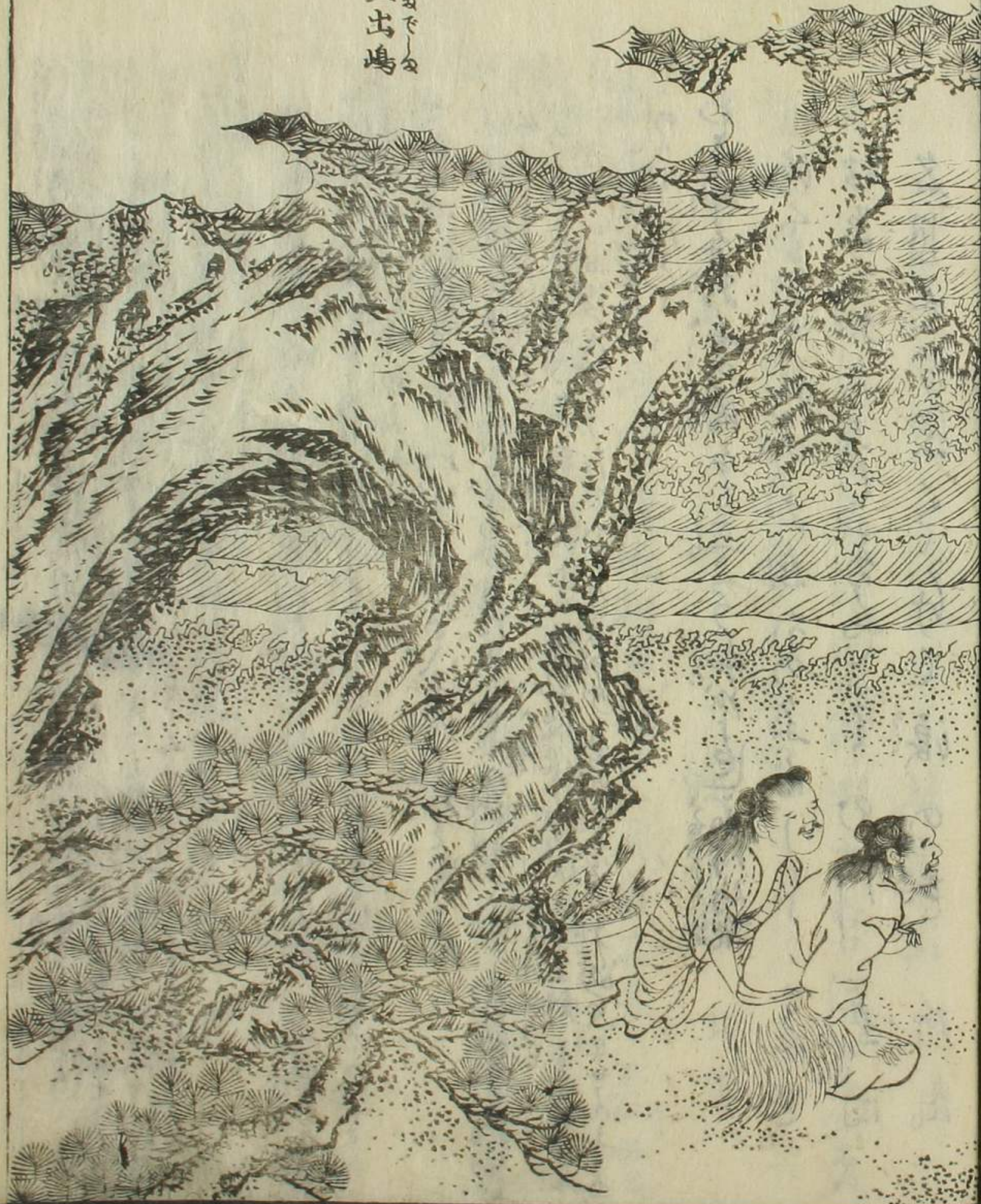
まらるるの神神とてはまらるるまらるる

まらるるの神神とてはまらるるまらるる

住吉の津考二所とのふ古本十のを津の目一かの目と
ゆる衆人の系するともえより何れ津にまゝ一もたあ
とやこの所の思つた住吉王出ぬ玉出の序ある御皇后
を参りたるより昂く浦木の多をわたりとも呼ぶり也
へ一或は于箇の二海に紀伊国日本宮にたまりたり
別古たはしるにそむもあべ一日あつたをり名所の
南備のふ不在一由は其氏の抄紙をいへば
るは細々一本奉仕の日本宮にて其く一あつた
とて其關係とも亦一何れちまふあだ
此泉の堰館は
の地たれあ
あふ浦にまゝの津林をいへば一と記の津林
稱へん 住吉の津林にありて其の地を
長門國を浦に
地の名ぬゆ津のまゝとるよりて 然るに皇國誌の記と
その津をすよとるたがひたり

和奇の津考二所とのふ古本十のを津の目一かの目と
ゆる衆人の系するともえより何れ津にまゝ一もたあ
とやこの所の思つた住吉王出ぬ玉出の序ある御皇后
を参りたるより昂く浦木の多をわたりとも呼ぶり也
へ一或は于箇の二海に紀伊国日本宮にたまりたり
別古たはしるにそむもあべ一日あつたをり名所の
南備のふ不在一由は其氏の抄紙をいへば
るは細々一本奉仕の日本宮にて其く一あつた
とて其關係とも亦一何れちまふあだ
此泉の堰館は
の地たれあ
あふ浦にまゝの津林をいへば一と記の津林
稱へん 住吉の津林にありて其の地を
長門國を浦に
地の名ぬゆ津のまゝとるよりて 然るに皇國誌の記と
その津をすよとるたがひたり

玉出嶋



付名考の... 大納言世
 九月 二保...
 意は師の...

七の... 七の...
 此の... 七の...

わ... 浦... 名月...
 浦... 名月...

名月... 柳風...
 名月... 柳風...

日 玉津真洞 林羅山 道春

百世... 報...
 百世... 報...

日 洞玉津嶋 江郎綬 北海

江... 海... 岩...
 江... 海... 岩...

六根...
 六根...

玉... 源兼昌...
 玉... 源兼昌...

狂秋 冢集 玉... 源兼昌...
 狂秋 冢集 玉... 源兼昌...

一... 其...
 一... 其...

名月やいづれぬわがのうらなるいぬ
素門 淡々
素道

雲雨よ長通姫の素顔えん
能看 提
大上 天皇

玉出寫
日西をいづれぬわがのうらなるいぬ
後花山院入道
大上 天皇

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
入道 大上 天皇

つれづれに思ひまゝなる玉を
後二位 皇子

持明院 院
本奉儀 為相

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
惟宗 忠景

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
大上 天皇

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
後西院 院

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

わが浦よけりて中のもろもろのえんを
法印 定照

抄

藤塩抄をよみわすし浦に積る玉も拾はくつ

多所

よほし浪なうらうらもほつらすしとわすらう浪

家集

わの浦に積る玉も拾はくつ

後

つらう首のねさるのくもの外れもなつゆん

孫

代へけく拾ひもなつゆん浦にわらう油を

抄

わの浦の玉も拾はくつ浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

家集

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

西

わの浦にわらう油を

日

わの浦にわらう油を

日

わの浦にわらう油を

日

わの浦にわらう油を

家集

君代も諸の玉も拾はくつ

文明

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

日

あられも代へけくわの浦にわらう油を

妹背牡蠣

名産に... 池原の品物

石動堂

本尊親近佛照士

本尊親近佛照士

本尊親近佛照士

林泉風を出雅う〜後ら〜石の遺り〜を南ふ
 し〜あ〜も風と立〜千か〜(方丈の書院)〜書
 庭きり〜石に藤鉄共余奇樹怪石の〜
 絶頂の〜手〜木の根岩〜す〜
 冬〜月〜
 松原の〜
 雪後の〜
 夫本〜
 西楓〜
 柏玉〜
 雪玉〜
 東窓宮を居〜
 松あり〜
 雪後の〜
 夫本〜
 西楓〜
 柏玉〜
 雪玉〜
 中務つみと
 よみ〜
 栄 雅
 後相原院
 隆



妹脊山各取圖

湖痕幾

人上採

磯同毛

以土之

奇産指

專妹背

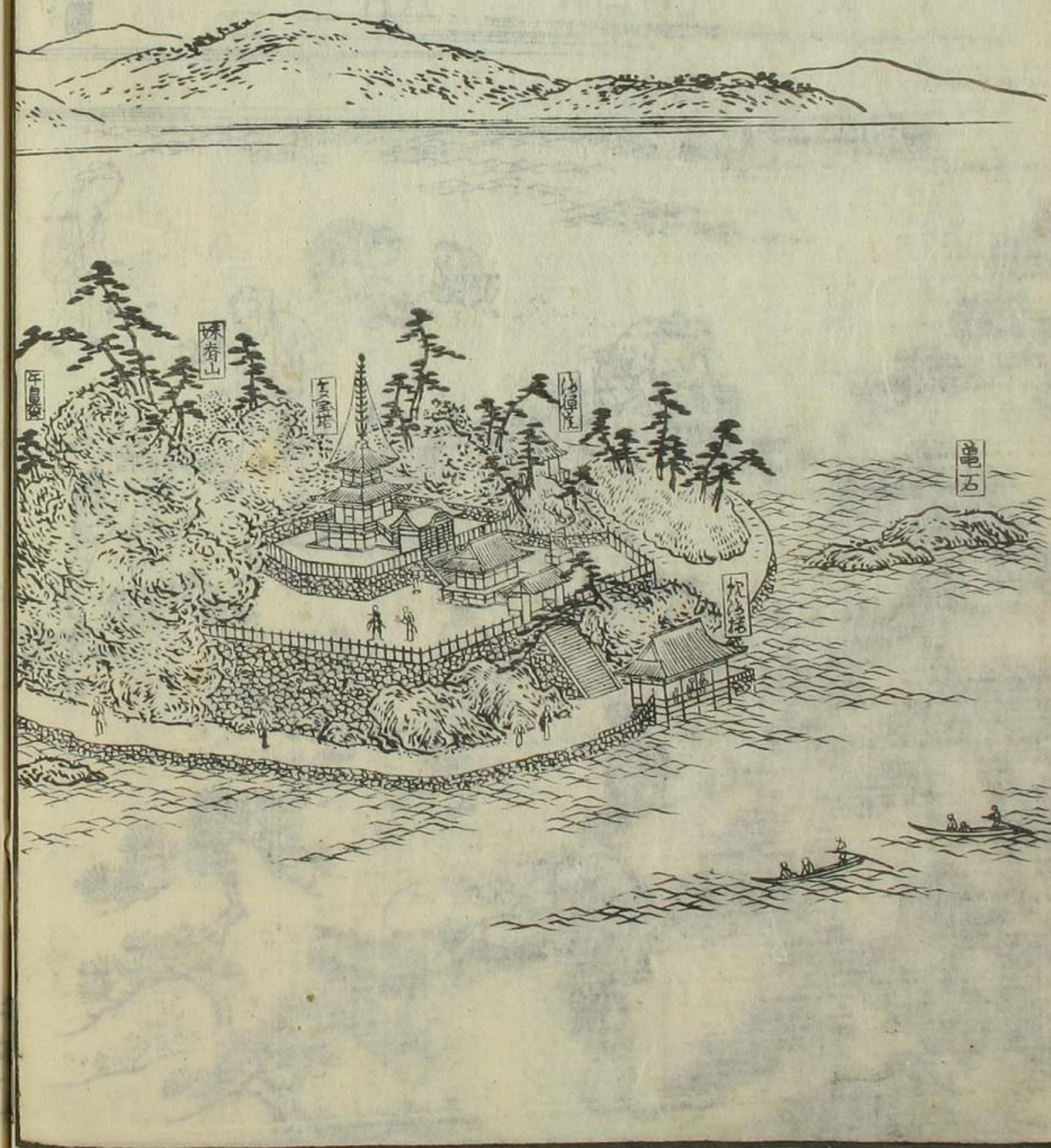
孫

養志

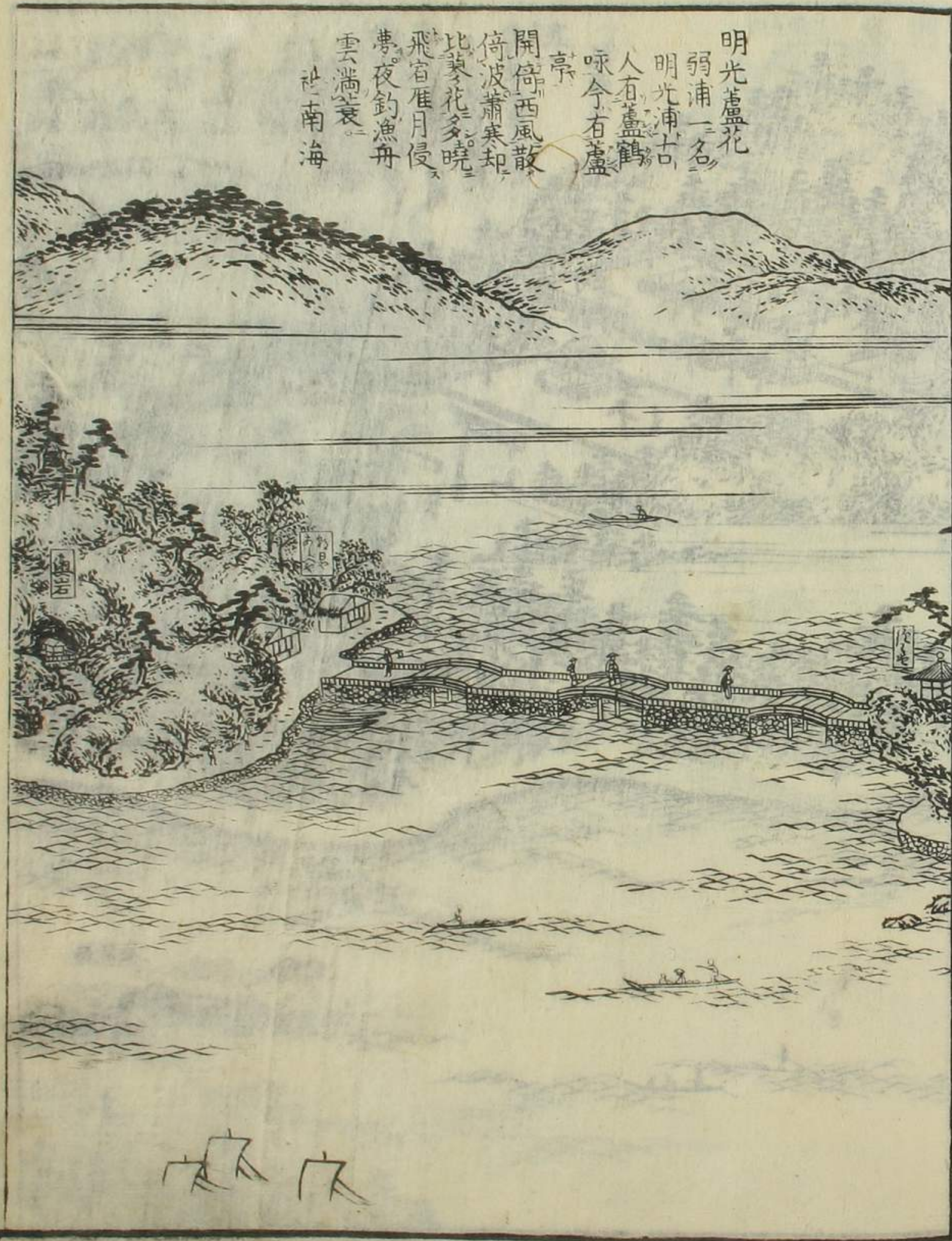


妹背山
多寶塔
觀海樓
三斷橋
芦邊茶屋

二親
江上迢遙
住客船子
規啼盡暮
春天聲聲
一夜催雙
淚回首鄉
雲落月邊
大江資衡



明光蘆花
弱浦一名
明光浦古
人有蘆鶴
咏今有蘆
亭
開倚西風散
倚波蕭寒却
比蓼花多曉
飛宿雁月侵
夢夜釣漁舟
雲滿衰
社南海



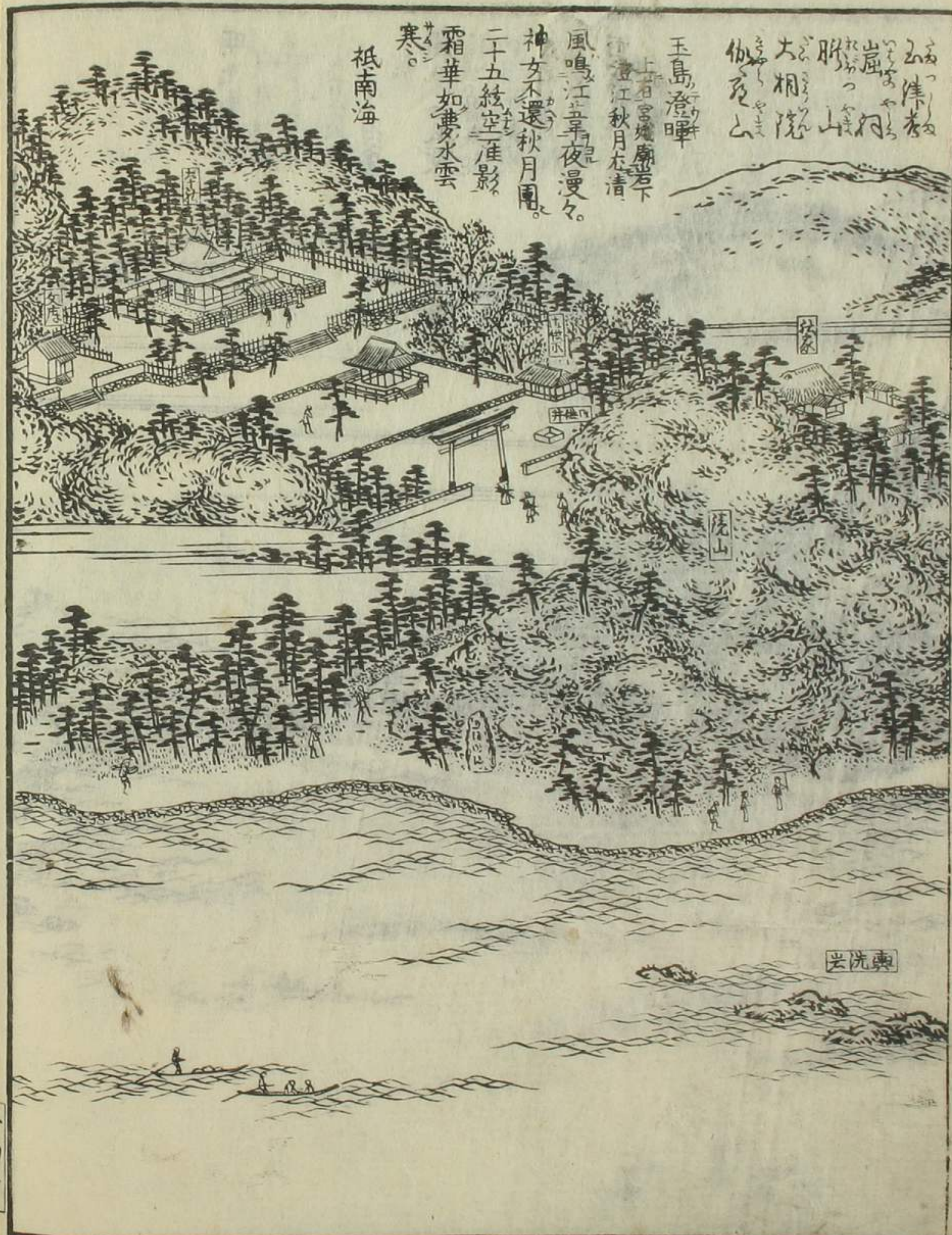


天狗山

其二

松島

松島



玉島燈暉
上石宮燈廟岩下
澄江秋月本清
風鳴江草夜曼曼
神女不還秋月圓
二十五絃空雁影
霜華如夢水雲
寒。

祇南海

出洗典



見衣冠歲出
遊
熊野崖老人



三其

東照宮
廟地肅清海
氣收登來忽
傍彩雲注既
知身是歸叢
爵常飽腹因
放野牛春滿
山河封永舊
世懸日月照
皇猷生涯幸
過昇如北幾



和歌浦

秋遊明光浦

東南山水美

未有若明光

惜乎數千歲

奇詠無一章

吾今傲雲月

斗酒搜枯腸

安得李太白

百篇共商量

祇南海

題和歌浦圖

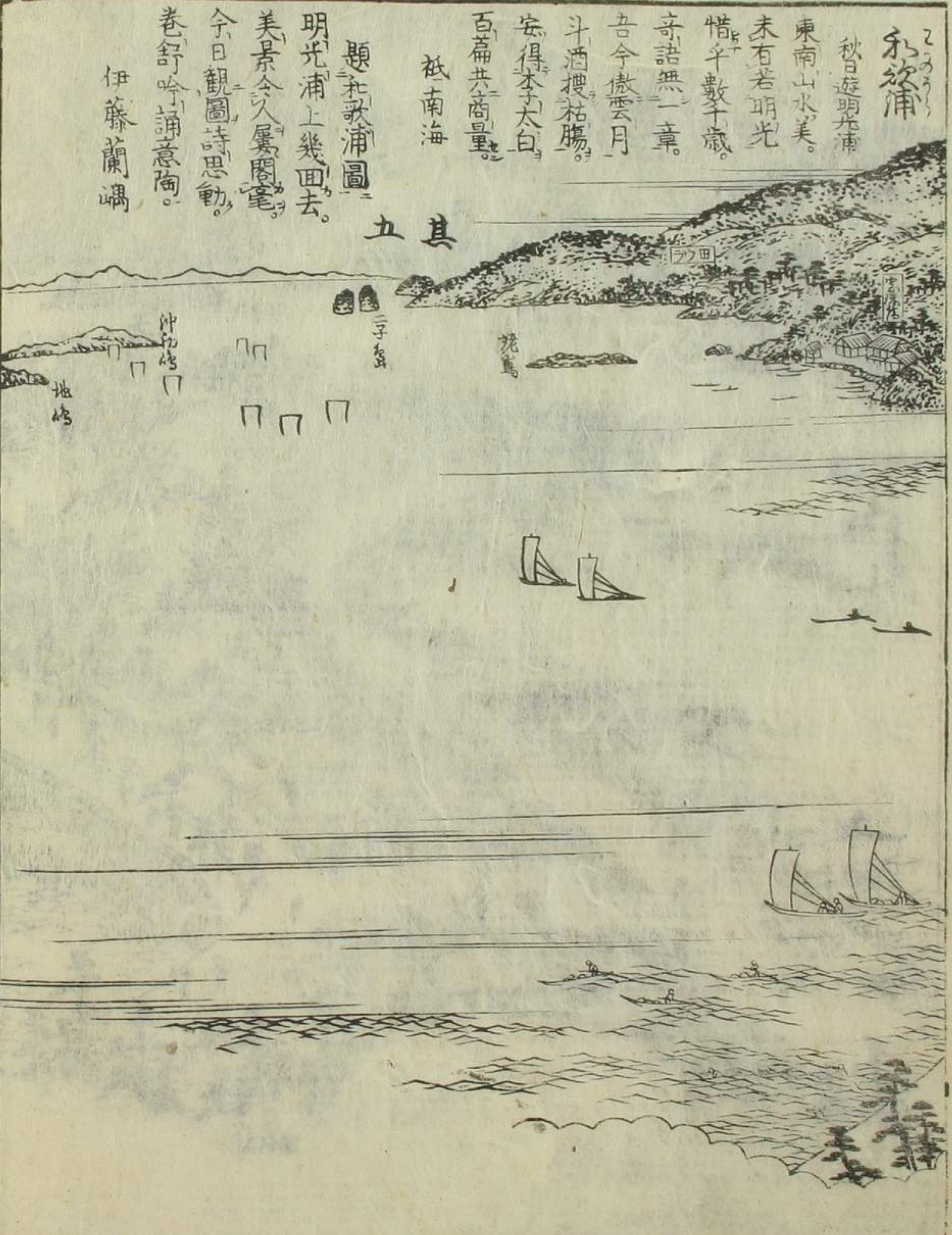
明光浦上幾回去

美景令人屢閱毫

今日觀圖詩思動

卷舒吟誦意陶

伊藤蘭嶼



分今

松原田鶴乃あく塩子ゆけ立渡りか 入道大尾

雪ふれおちの松原埋まき塩子ゆけの勢をきとら 雅永朝臣

和歌御宮

本宮奉拜御神座 東照大権現 日吉山王権現 摩訶羅神

拜殿 唐門 唐門の西あり唐門の東あり唐門の南あり唐門の北あり

三重浮圖 護摩堂 護摩堂の西あり護摩堂の東あり護摩堂の南あり護摩堂の北あり

薬師堂 薬師堂の西あり薬師堂の東あり薬師堂の南あり薬師堂の北あり

閑山堂 閑山堂の西あり閑山堂の東あり閑山堂の南あり閑山堂の北あり

御橋 御橋の西あり御橋の東あり御橋の南あり御橋の北あり

下馬橋 下馬橋の西あり下馬橋の東あり下馬橋の南あり下馬橋の北あり

石井表 石井表の西あり石井表の東あり石井表の南あり石井表の北あり

銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆此後遂舍の標はるべき

銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆此後遂舍の標はるべき

銘曰東照揭日月華表劉石維明維堅萬世無疆此後遂舍の標はるべき

當 御宮元祿六年庚申の歳乃沖造宮に比敷山大學正
眼大師の岡山より沖草地に藥師瑠璃光如來さまに相殿に
摩訶羅神おまひ日光山王権現さまにたのむに
東照三宮と稱し奉まう忍忍も
令追ふ思ひなるとた文九亀の間天下授けし武將兵人
に乞ひりし織田豊臣の兩將軍を起り後よつて御事よ
辱れどもまは武の偏りし文は疎くまは春山のまは
つたあまは未後たぬくまとのあまはつたあまはつた
ひとた母もあまはつた
神君勃然とて起りて我が長く完後と平げぬ
干戈の霜と外陽は消し長は民草の葉と春風は靡せぬ
たつて豊洲はあまはつた紅梅のぬこは枝葉に輝く
御徳ハ 御神号にあらう

沖影のてしまる陸のやまの 沖代くは宮の竹のそく
龜の尾の緑の色とあまはつた陸の聖火をさつた
ゆるまらつたね莫々の 恩はつたあまはつた
申も思多しれも機より山上ありし石築方たは立る
朱の玉垣は深く林邊の後多し映若くして一段の虫塚を
神威のつらう巖はまはつたあまはつたの靈地をう
三葉四葉の若を美を輪を流人の眼を
奪入殿木の桜花に三葉の山よりうつたあまはつたの
まはつたあまはつたあまはつたあまはつたあまはつた
翠色にぬ

沖祭れと事

毎月十七日 樂山養心九月十七日沖山のさく度小終は相模あり
外中祭中四月十七日の沖祭れ自餘の式はわらわりの沖山の

ぬめりより沖旅所まきと持参を多かりて誠と准と云ふの地も
なく都鄙の老弱袖衣ほしく唯は裳と云ふ幕と
るんやまの雑沓よりあつたなまの比ひあつ

御神輿の渡幸の由日辰の上刻に例時沖旅所を道末と
参りし神の儀は清らなる供奉の祈りめは満りて杖
参りたるにあつたはとを其仕敷あるのとりや

- 長方振あり
- 赤母長七人
- 白母長
- 連尺五人
- 棒振三人
- 老教二人
- 拍子鉦一人
- 笛三人
- 蛭吹一人
- 法持四人
- 雑女踊 五十人

はたけの口牌に美流とほしく他は神の儀に
の連尺呂律のまきと持参の曲とほしくは
幸の身目にはよりしは神の儀に
あつたは天竺もあつたは
とほしくは神の儀に
とほしくは神の儀に

- 唐船 二十九人
- 笠陣 八人
- 餅搗踊
- 鳥帽子
- 雑女

○夫婦の事、神代のむらより始りて先哲のまきとほしく
なげとせいで世は持たる久く造酒を神の中にも
下戸ある神の納交ありて造酒を神の中にも

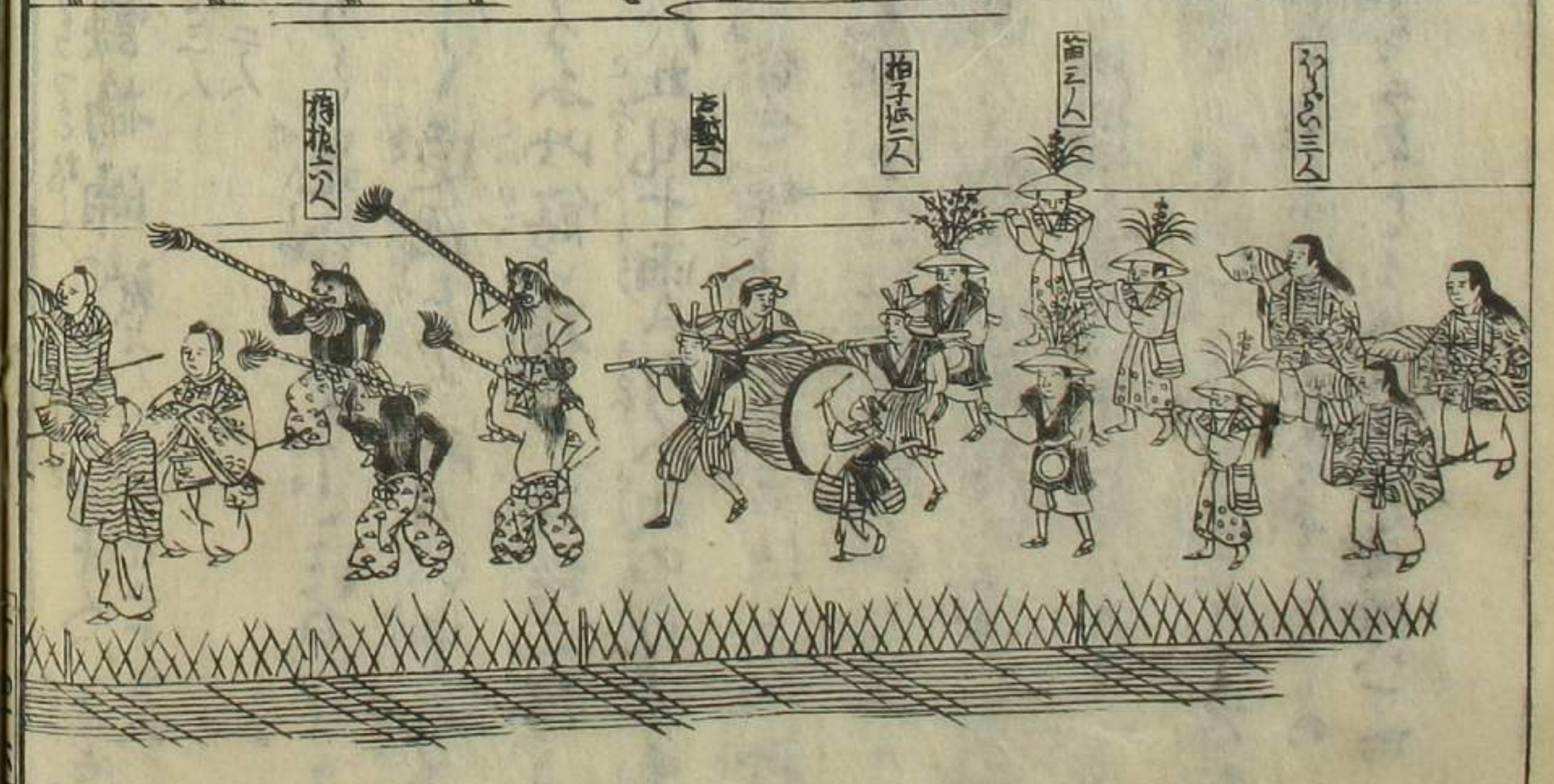
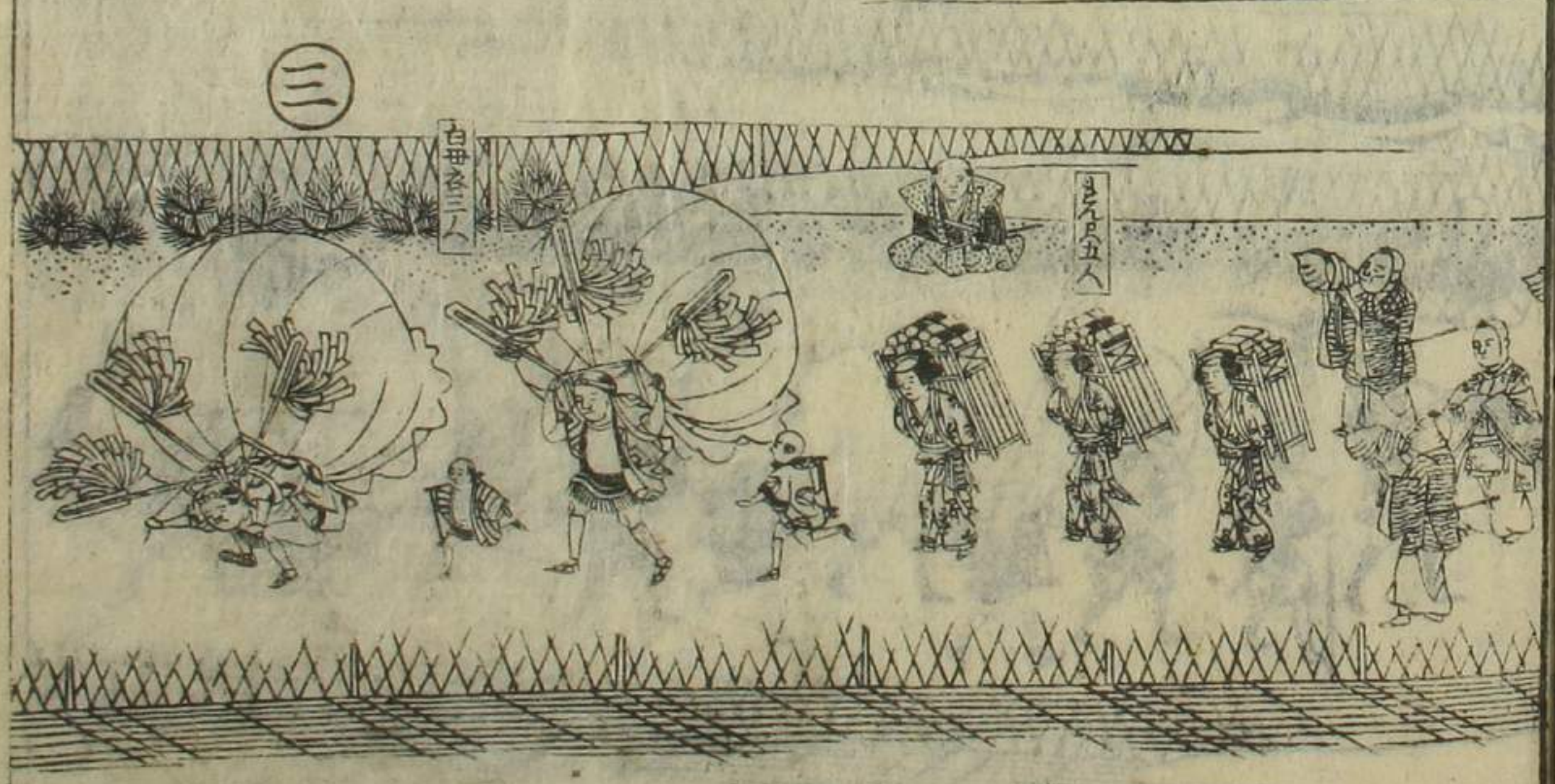
はもや丸や市小のいれもあつたは凡十雨は凡氏の左平系
と持し雀躍はあつたは拍子と命を神の儀に

たるはあつたは拍子と命を神の儀に
美を手合の婦して八人の持持男は紅彩の花いと借り

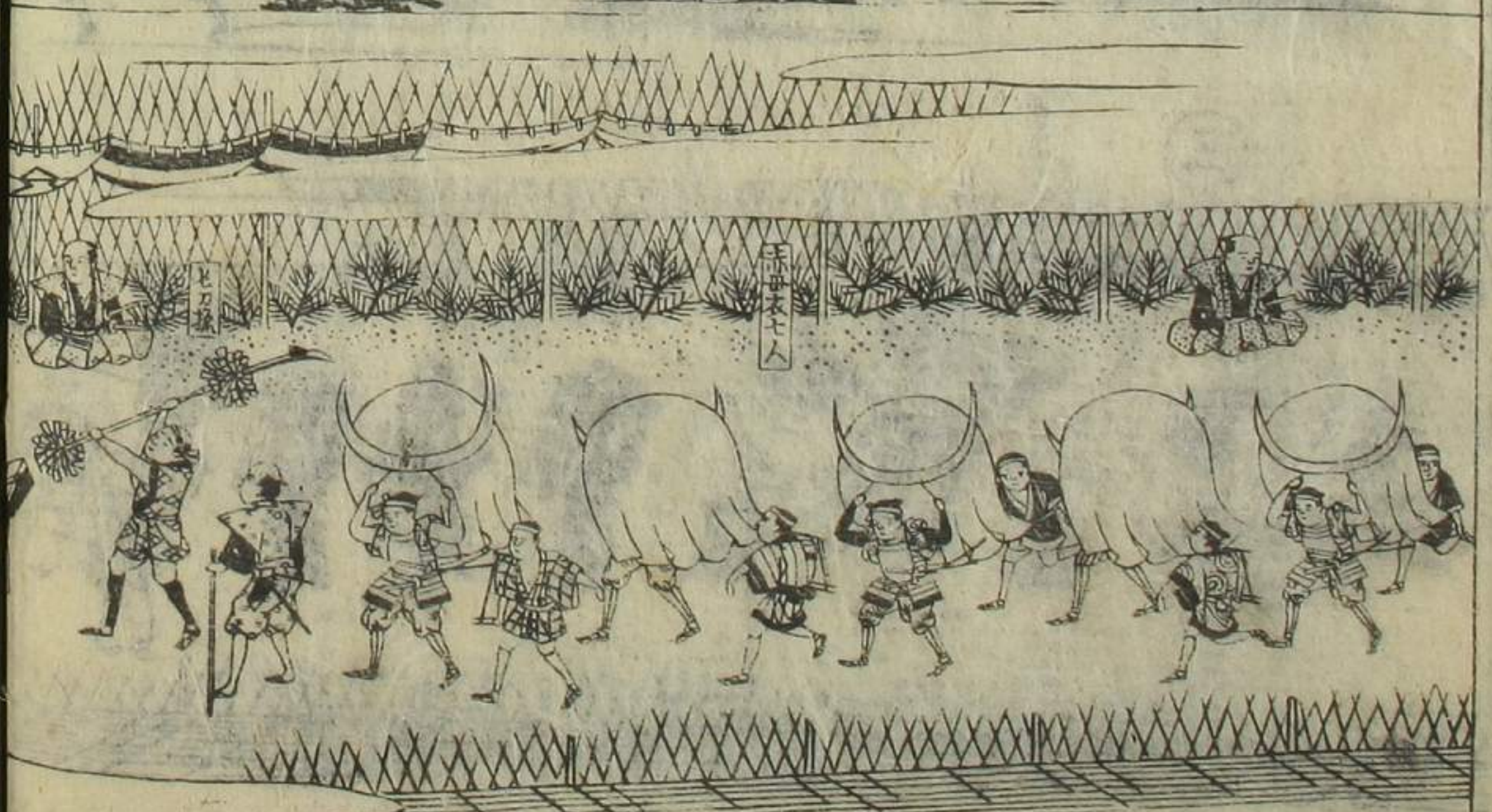
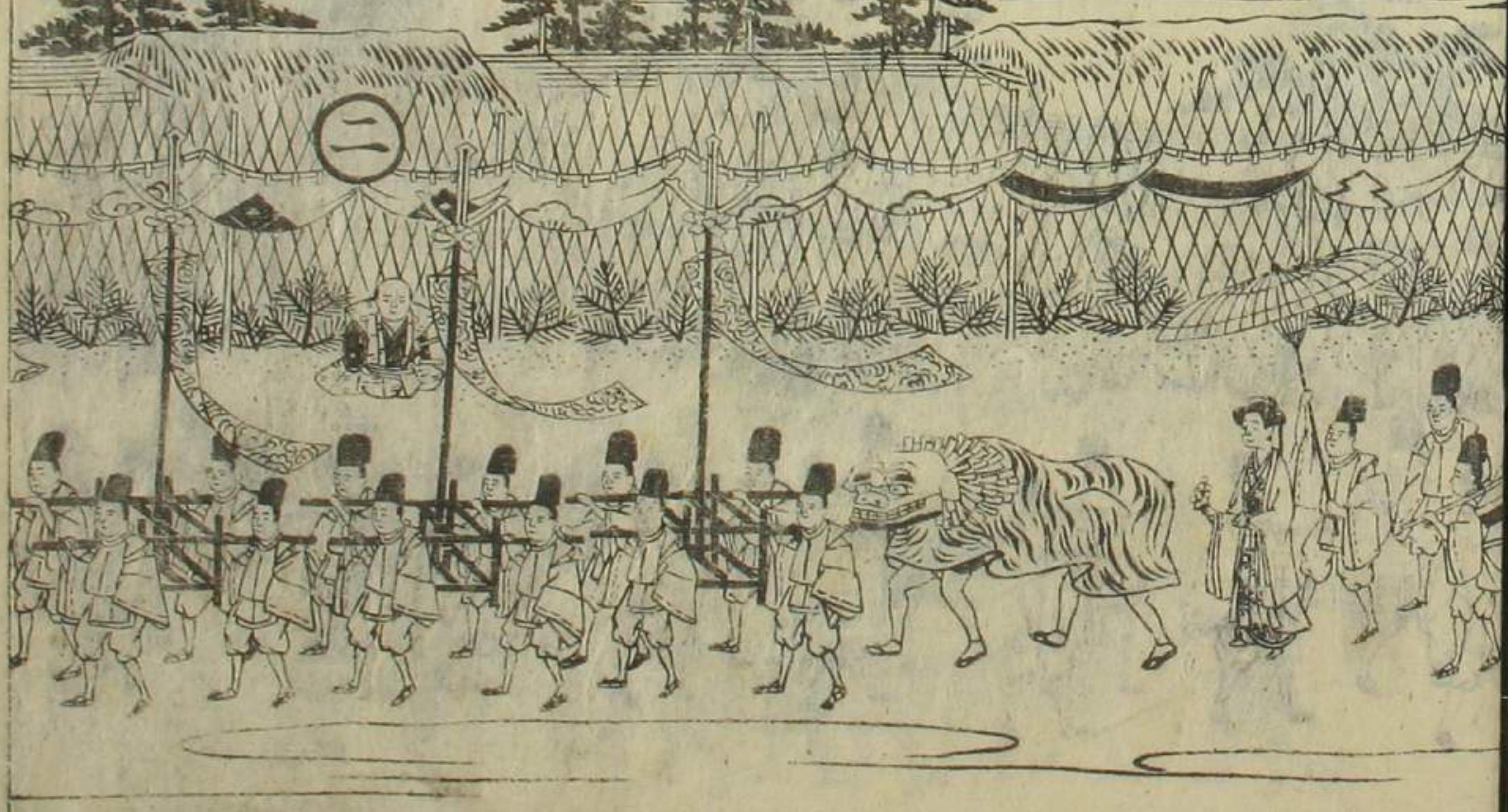
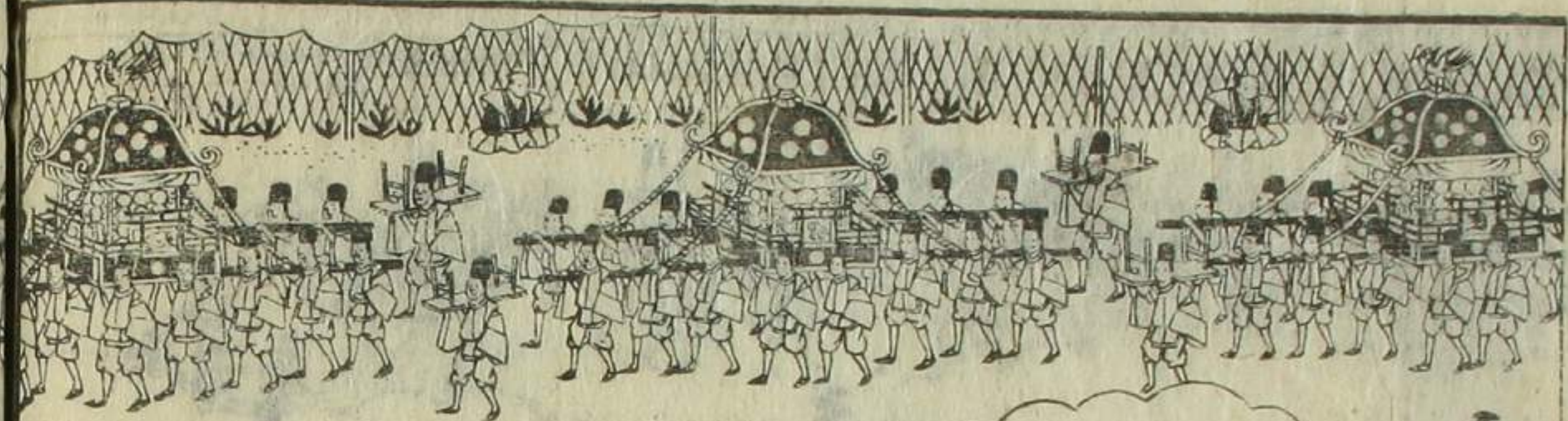
たのくは能のよと拍子と命を神の儀に
まきとほしくは神の儀に

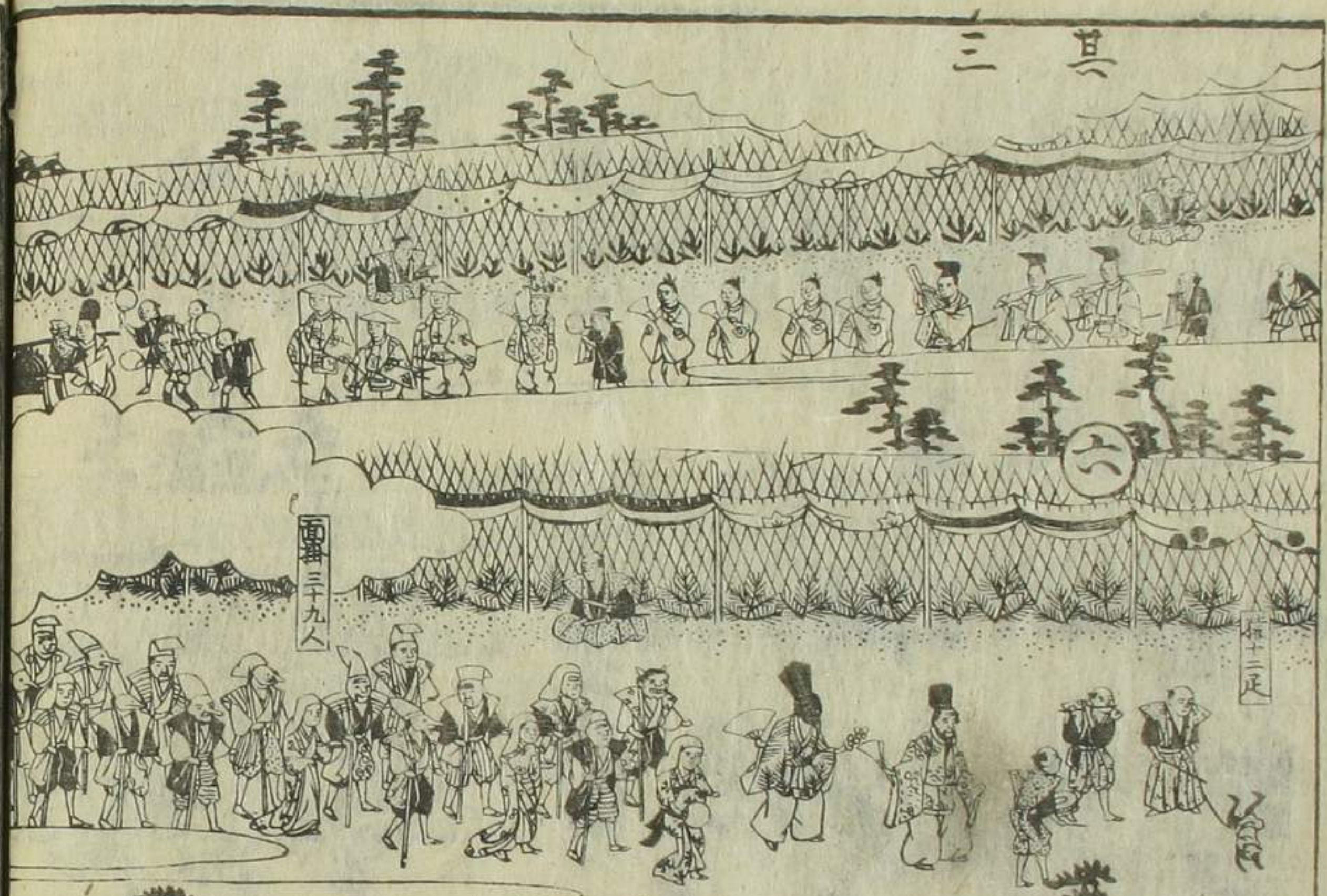
因日

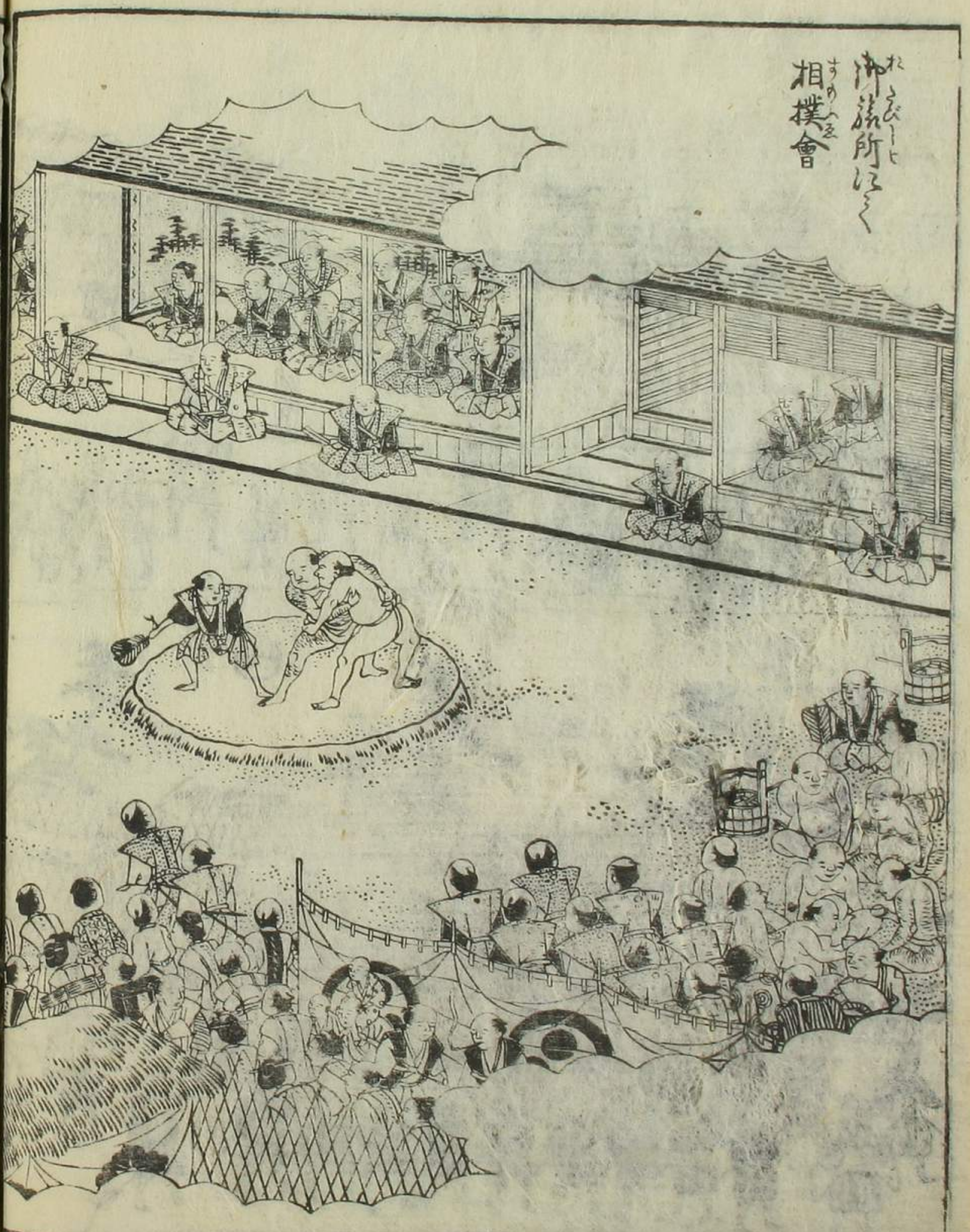
其書と一新一二の拍子をとりては再興の慶願ハ丁所
よりは後とほしく



東照神君御旅所
 神幸市祭式







相撲所
すまひ
相撲會

天満宮 陳徳宮神宮の 二殿 菅井と 拜殿 三燕隠の市筆

樓門 遊園と庭とくまの 末法 白山

牛の画 九日塩の

の極にもあり

にさし

観音堂 観音の南

依傳日記 依傳日記

の考を

とせん

より

まゝ

とそ

助の報 助の報

たり たり

鳥 鳥

ふ ふ

す す

東照神君 東照神君

地 地

さ さ

國君 國君

重建 重建

於 於

南紀 南紀

野氏幸長公就昨土之封之五年相舊制之溢陋而於
 邑不措焉然神長主先成民而後致力於神鑿開北
 域依崖壁疊鉅石踰攀崢嶸百工子如來祠堂不自
 以落矣刻畫華彩丹漆黜聖述哀之壯也
 棄目若秋梁公毀江淮淫祀一千七百區所存者惟夏禹
 位子昏二廟君子猶以存位子昏廟未是國主之
 於此廟可毀乎以新焉可瘞乎以崇焉所為可久而
 羅山詩集云傳欽浦天漢宮者未詳其州創之時世
 也其從來已久矣或曰橋直幹自宰府敗京師時過此
 浦而始崇奉焉今所存者漢於幸長之所改造也頃歲
 滕惺窩應幸長之求而作廟碑銘然有故不建碑之
 宦氏為風儒者宗靈神今古仰遺跡西都北野南

眞浦二處祠堂一色松

和欽浦

於西南出欽浦あり上古の

浦りりれ浦

原御

万葉

美浦尔白浪立而真風寒暮者山跡之巧念

作者不詳

續指

老の浪も〜〜〜

連敏法師

詞花

美化也久米の依〜〜

大納言師頼

日

美の浦〜〜〜

贈左大臣

千載

初年〜〜〜

祝部成仲

新古

原塩〜〜〜

原長

日

和の浦〜〜〜

民の光

日

美の浦〜〜〜

美

日

美の浦〜〜〜

家

日

美の浦〜〜〜

寂蓮

新勅

つ浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

法眼宗圓

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

行念法師

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

俊成

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

西行法師

債後

つ浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

前大政大臣

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

正三位知家

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

藤原為綱

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

藤原師季

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

平泰時

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

平時直

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

藤原光俊

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

藤原秀茂

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

正三位経朝

債拾

つ浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

藤原泰時

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

権律師定為

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

為家

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

道洪法師

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

前園白大政大臣

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

為世

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

院御製

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

津守國助

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

入道前大政大臣

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

為氏

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

園白大政大臣

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

前兵衛将左衛門

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

教

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

教

玉葉

とて浦の浦をきりて浦の蘆塩村とていふは東をん

教

集来一代此迄濱多有り也もろろわかの浦ぬ

御製
大信三賢俊

父所文部左大臣兼右大臣わかの浦一もかゝりてちかうゆかあか

尋りわかの浦迄の濱ゆありてふ道一人共よ

紀淑氏

立ちつ江はほそも濱ゆありてふ道一人共よ

大信三賢俊

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

大信三賢俊

つはれあつてきれにるゆありてふ道一人共よ

大信三賢俊

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

大信三賢俊

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

大信三賢俊

今より家世風俗を傳へて名をけりわりのうへ

後三信子

手紙わらぬかゝりてん考よりあつてつるのうへ

後三信子

名をけり江はほそも濱ゆありてふ道一人共よ

後三信子

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

後三信子

四はすもつて世のわしあつてなまへにわかのうへ

法皇御製光嚴院

わかにあつて浦をせよろりてはのなりとせまへ

等持院贈左大臣

わかのうへ其人もあつてなまへにわかのうへ

大納言頭實母

いふせんあつてなまへにわかのうへ

法印淨弁

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

惟宗光吉朝臣

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

藤原雅頭

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

行兼法師

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

性道法師

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

法印實清

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

正三位信家

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

言法親王

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

信快法師

わかの浦やほそも濱ゆありてふ道一人共よ

正三位通

新千

美の浦よ志の果に 持舟も今人なき世に

原 有

新後

口よりたぬいより 丹波の地は

重納言親賢

きつてよわきの浦に 舟をたづねて

三谷 有 水

ちのぬあつたけい ちやうとつて

小槻臣 遠

尋まよわきの浦に 舟をたづねて

原 高 範

わがれい ねえ 舟の 舟をたづねて

左 大 臣

そよ竹の浦に 舟をたづねて

品法親王 寛

舟をたづねて 舟をたづねて

鴨 長 明

及ぶた後いあら ねえい

よみん

美の浦や 舟をたづねて

順徳院 舟 製

老なるの 舟をたづねて

有 重

わが浦の 舟をたづねて

後八条 入 道

口よりた 舟をたづねて

赤内 大 臣

新續

口よりた 舟をたづねて

民部 有 明

新續

口よりた 舟をたづねて

民部 有 明

新續

口よりた 舟をたづねて

原 有

口よりた 舟をたづねて

大納言 有 女

口よりた 舟をたづねて

左 大 臣

口よりた 舟をたづねて

漢人 有 氏

口よりた 舟をたづねて

大納言 有 継

口よりた 舟をたづねて

大納言 有 世

口よりた 舟をたづねて

紀 行 丈

口よりた 舟をたづねて

中納言 有 雅

口よりた 舟をたづねて

原 有 茂

口よりた 舟をたづねて

法印 有 運

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

口よりた 舟をたづねて

大政 有 臣

新續 新集 新集の浦はるる代もあつた道の神といふ

堀川 堀川の浦をふちうつたの世とあつたあつた

支木 支木の浦をふちうつたの世とあつたあつた

わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

口わが代はるる代もあつた道の神といふ

夫木 夫木の浦はるる代もあつた道の神といふ

六百 六百の浦はるる代もあつた道の神といふ

林葉 林葉の浦はるる代もあつた道の神といふ

家集 家集の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

格ふ 格ふの浦はるる代もあつた道の神といふ

千代 千代の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

日 日の浦はるる代もあつた道の神といふ

瀧玉

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

文子親王

州庵

わがわがやまをふるまふの山をふくむくちをたはしき

頼朝法師

二

日

ののや浪をきかひらけしとて心のやうくをたはし

百首

わがわがの心もあはれむの心もあはれむの心もあはれむ

牡丹花

文子

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

宗徳法師

源州

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

政をい

奥玉

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

高親王の胤

友宋

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

高親王の胤

日

なまの浦代はらうほをひらけしとて若の浦凡

高親王の胤

紀州雜詠遊、わが浦

藤肅

堤富文集

遨遊諸客海城傍。儼水光連彼蒼。出網跳魚新
撥刺一聲。欵乃逐斜陽。

和歌浦林律

林羅山

弱浦首聞久。今看猶眼明。蟻粘疑石出。蟹走訝錢行。
松下有渙到。蘆邊奈鶴鳴。堆堆鹽竈冷。處々草苔生。
土腴如蜀府。潮去似金城。兼興即冷矣。山青水自清。

明光浦眺序

東 涯

兩岫在門倚。海涯明光勝。景素相誇。天風忽自南。
溟落萬頃。銀濤吐雪飛。

送安子深遊、わが浦

大江玄圃

和歌江上水。雲海千里秋。高氣爽哉。陪日數行。群鶴
度。敬馬濤。一片蹴天來。

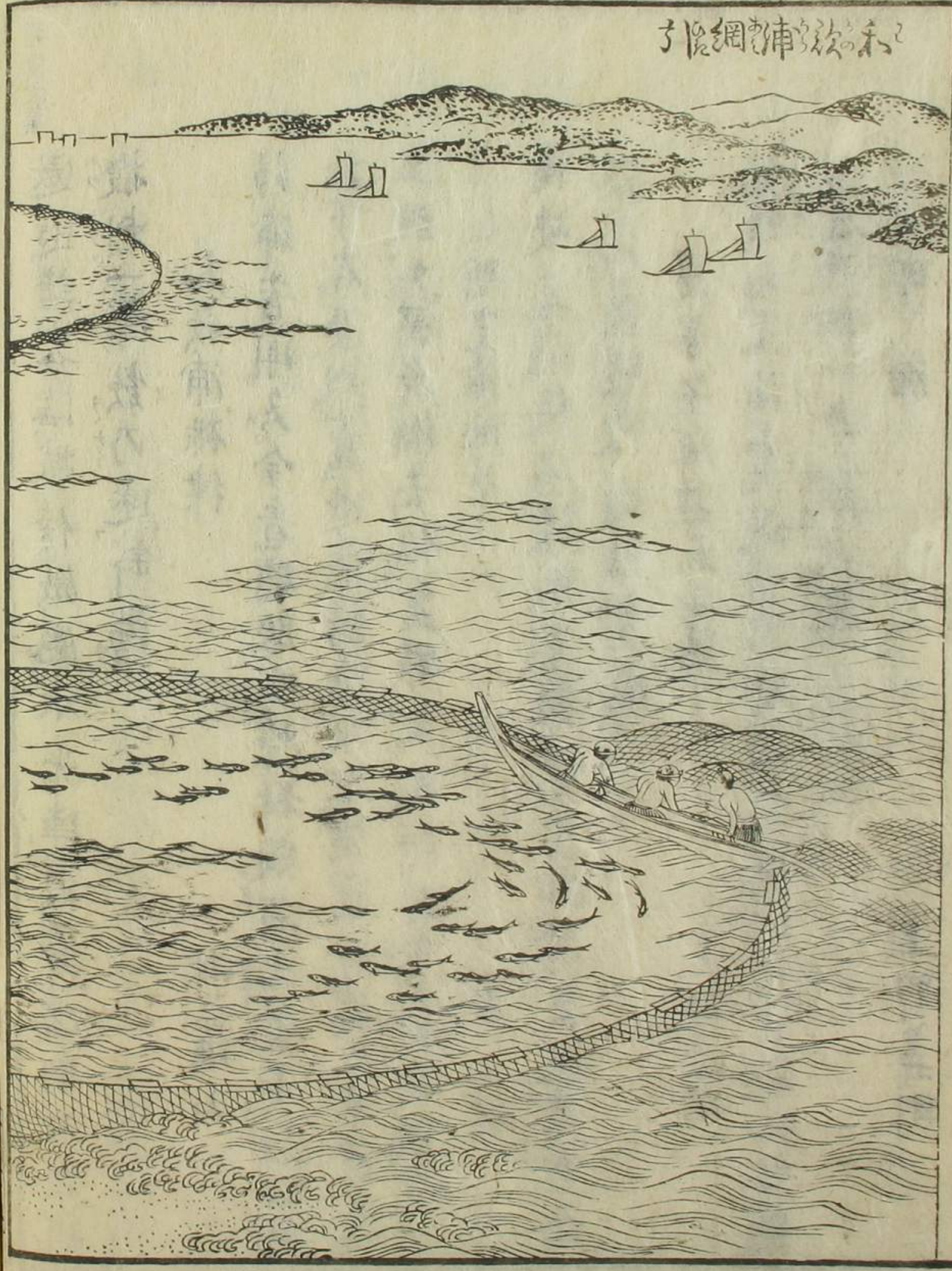
明浦

上野義剛

乘興一篇船相尋
 和浦邊姬歌波
 點雲鮫泣雨如
 烟沙岫饑鷗仰
 苔磯釣客眠南
 溟殊不遠九萬
 夕陽前
 熊野老人



和歌浦網子



浩歌醉上金山舟。陳跡欲尋明浦秋。忠墳千年宮寂
寂。仙妃一去水悠悠。芙蓉露落青牛渚。蘆荻風鳴白
鷺洲。此會相逢他何事。試將今古問沙鷗。

狂歌員合

君代浪々遊るをいふ

日

君代浪々遊るをいふ

君代浪々遊るをいふ

君代浪々遊るをいふ

君代浪々遊るをいふ

君代浪々遊るをいふ

君代浪々遊るをいふ

和詩

小貝文々浦へ綿に契て霞ひふら感

波もきたる影なる夜に衣通帳のほむね

國原光生南花苑

わが浦ふ

ま里あり

東照宮なる山よよ立たす入宮はかり

大に〜〜〜美悪なり神領多し傍金堂へ坊あり是よりつら
ひ〜〜〜景す〜〜〜今身のけを様かきよ〜〜〜光
景も〜〜〜沖の下の合院よ 東都神代
の沖靈廟あり其西雲蓋院に傾山あり甚佳景をる芦
口の田舎を〜〜〜 東照宮の下土林の多坊の有
〜〜〜入土神の社に 東照宮のたつた並へり
是き〜〜〜山の上の〜〜〜 東照宮のたつた並へり
漢人の所を〜〜〜のほほ〜〜〜沖の地真沖の
〜〜〜入海を〜〜〜倍院よ〜〜〜たな
〜〜〜片岡波〜〜〜説難き男を〜〜〜大
ち〜〜〜山は〜〜〜其後瓜後とんあも
つらの内を〜〜〜たな〜〜〜あ〜〜〜た
〜〜〜後人〜〜〜其〜〜〜あ〜〜〜

高浦の杖桑に花のくさる勝地にこゝ古人のきき詠をよみ
 美人一首瓜粒をもち東西に餘町ありて濃き色濃
 おくの田鶴は間うちらけの洋たりとちかひの名所と
 令刑宣寺のつひの多に悠揚とて暇に長くあそび
 東南に生るる山はこゝろとて夜白の津坂翠峯とてく
 そいへ麓のたけの浦塩津浦のありてゆるゆる西海の小舟
 四國の高船ありて圓東のつれ出船入船ありて商客乃
 軒瓦はひもも鮮くええりて西南の蒼海漫とて
 大鵬九萬里に羽をたけありて初島ありてみろ先
 ころつて千尋の底ふあらはる海士遊び志のちみよ世と
 こゝろ業くしむてははれと衣きちるるは地
 の山と岩根のまじり緑とあすけとてねと風よみたるは
 一曲ちるる景色は初寤とて二十の美人紅粉とて粧ひて



